

iCOTBa

2025

愛知県立大学グローバル実践教育推進室 年報

第 13 号

2026(令和8)年3月
愛知県立大学

i C T B a

2025

愛知県立大学グローバル実践教育推進室 年報

第 13 号

2026(令和8)年3月
愛知県立大学

目次

21 世紀の第 2 四半世紀（クォーター）と iCoToBa について	1
1 グローバル実践教育と iCoToBa	3
1.1 グローバル実践教育プログラム.....	3
1.2 iCoToBa における学習支援	5
2 iCoToBa での語学教育	7
2.1 iCoToBa 開講講座一覧	7
2.2 講座内容.....	9
2.2.1 留学前準備講座.....	9
2.2.2 英語コミュニケーション講座.....	12
2.2.3 地域コミュニティ言語講座.....	14
2.2.4 語学検定試験対策講座.....	18
2.2.5 iContact（あいこんたくと）.....	23
2.2.6 海外大学の学生とのオンライン交流.....	29
3 留学報告会.....	30
4 グローバルセミナー.....	31
5 iCoToBa のイベント	43
6 外部・地域との連携事業.....	51
6.1 探・県大スタディツアー.....	51
7 広報活動.....	52
7.1 iCoToBa 公式 Web サイトでの発信.....	52
7.2 SNS での発信（Facebook・Instagram）.....	54
8 iCoToBa 学部・学科別利用者一覧.....	56
9 iCoToBa 施設見学	57
9.1 iCoToBa 訪問者	57
9.2 高等学校の iCoToBa 施設見学	58
10 グローバル実践教育推進室会議.....	59
11 グローバル実践教育推進室.....	60

21 世紀の第 2 四半世紀(クォーター)と iCoToBa について

奥田 隆史

グローバル実践教育推進室長・教養教育センター長

皆さま グローバル実践教育推進室室長(教養教育センター長、情報科学部教授)奥田隆史
です。

21 世紀も最初の四半世紀が過ぎ、第 2 四半世紀に入りました。「VUCA」、すなわち変動性が
高く(Volatility)、不確実で(Uncertainty)、複雑(Complexity)、かつ曖昧(Ambiguity)な時代で
あると言われて久しいですね。しかし今は、VUCA だけでは急速に変わる時代を説明できないと
して、「BANI」—Brittle(脆弱)、Anxious(不安)、Non-Linear(非線形)、Incomprehensible(不可
解)—というワードも使われるようになりました。

では、このような時代を、私たちはどのように日々を過ごせばよいのでしょうか。

先人の知恵を借りるのなら「ことわざ」が良さそうです。今回はあえて、私がこれまで触れる機
会の少なかった『アフリカのことわざ』(アフリカのことわざ研究会編著、東邦出版、2018)を紐解
いてみました。今の時代には、以下のような「ことわざ」が深く響くように思います。

- 子供を育てるには村がなくてはならない(アフリカ不詳)
- 心配とは想像力の誤用である(アフリカ不詳)
- 穏やかな海は熟練した船乗りを育てない(アフリカ不詳)
- 道に迷うことは道を知ることである(タンザニア)
- シマウマを追っても必ず捕まえられるわけではないけれど、捕まえた者は追っていた者
(アフリカ南部)
- 地べたの上の果物は、みんなのものだけど、木の上のそれは登ることができる人のもの
(ジンバウエ)

つまり、大学という「村」の力を借りて互いに支え合い、過度な心配(想像力の誤用)にとらわれ
ることなく、VUCA・BANI の荒波さえも成長の糧として、高い木の上にある「果実」を求めて挑戦
し続ける。先人の知恵は、私たちにそのような姿勢を求めているのではないのでしょうか。

さて、本学には「iCoToBa」という、まさに皆さんのための「村」があります。ここでは、様々なイベ
ントや講座を用意して、皆さんの「木登り(挑戦)」をお待ちしています。ぜひ、この場所をフルに
活用してください。私も皆さんと共に、挑戦を続けていこうと思います。



写真: アフリカのことわざを反芻しながら、英虞湾に沈む夕日を背に (2025 年 12 月)

1 グローバル実践教育と iCoToBa

2017年4月に、グローバル実践教育推進室が設置され、「グローバル実践教育プログラム」および教育施設である iCoToBa(あいことば:多言語学習センター)の運営を行っている。

iCoToBa では、「グローバル実践教育プログラム」を推進するために多様な活動を行っている。具体的には、全学部生を対象とした外国語学習支援をはじめ、グローバル化が進む地域社会において、各学部の専門性を活かす場における外国人住民とのコミュニケーション能力の養成や多文化共生社会に必要な異文化理解、さまざまな情報を得るための実践的な英語能力の養成などが挙げられる。

以下、グローバル実践教育において、iCoToBa が果たす役割と、本年度の iCoToBa の取り組みについて述べる。

1.1 グローバル実践教育プログラム

2017年度に始まった「グローバル実践教育プログラム(学部により19~26単位)」は、2021年度から教養教育新カリキュラムと連動し、「県大世界あいち学マイスター制度・グローバル実践教育マイスター(全学部20単位)」として認定される。卒業時に獲得する知識とスキルは8つの分野に定められ、それぞれに科目が設置されている。

- A. 国際教養
- B. プレゼンテーションスキル
- C. 情報リテラシー
- D. 広義のコミュニケーション力
- E. 異文化適応能力
- F. 課題発見・解決力
- G. マネジメント能力
- H. 外国語能力



フィールドワークや PBL などのアクティブラーニングを取り入れ、他学部の専門科目を履修できるようにすることで、異なる専門性や背景知識を持った人と協力し課題を解決する機会が設けられており、実践的な学習そのものが異文化理解体験につながるよう工夫されている。(別表1、2参照)

別表 1 グローバル実践教育プログラム

	開講科目	設置 単位	必修 単位
A・ 国際 教養	愛知の文化遺産	2	2
	日本の歴史と文化	2	
	アジアの歴史と文化	2	
	ヨーロッパの歴史と文化	2	2
	北アメリカの歴史と文化	2	
	中南米の歴史と文化	2	
	アフリカの歴史と文化	2	
	現代社会の諸問題	2	
エリアスタディーズ総論	2		
B・ プレゼン テーション スキル	Intercultural Seminars in English (英語セミナー) *	4	2
	Seminários interculturais em português (ポルトガル語セミナー) *	4	
	Séminaires interculturels en français (フランス語セミナー) *	2	
	Seminarios interculturales en español (スペイン語セミナー) *	2	
	Interkulturelle Seminare Deutsch (ドイツ語セミナー) *	2	
	跨文化汉语研讨班 (中国語セミナー) *	2	
県大教養ゼミナール	4	2	
C・ 情報リテ ラシー	情報リテラシー	2	2
	メディア情報基礎	2	
	高度情報社会の理解	2	
	データサイエンスへの招待－実践編	2	
D・ 広義の コミュニ ケーション 能力	多文化社会とコミュニケーション	2	2
	キャリア実践	2	
	日本語表現法	2	
E・ 異文化 適応能力	Global Vision Talks	2	2
	Japan Seen from Outside	2	
	Japan's Interactions with Other Cultures	2	
	教養外国語ショートプログラム	2	
	教養留学修得科目	6	
F・ 課題 発見・ 解決力	ものづくりの現状と課題	2	2
	グローバル社会の諸問題	2	
	いのちと防災の科学	2	
	県大エッセンシャル	2	
G・ マネジメ ント能力	インターンシップ実践	2	2
	キャリア展望－生き抜く力	2	
H・ 外国語 能力	英語 II	4	2
	Intercultural Seminars in English (英語セミナー) *	4	
	ポルトガル語 I	4	
	ポルトガル語 II	4	
	Seminários interculturais em português (ポルトガル語セミナー) *	4	
	フランス語 I	4	
	フランス語 II	4	
	Séminaires interculturels en français (フランス語セミナー) *	2	
	スペイン語 I	4	
	スペイン語 II	4	
	Seminarios interculturales en español (スペイン語セミナー) *	2	
	ドイツ語 I	4	
	ドイツ語 II	4	
	Interkulturelle Seminare Deutsch (ドイツ語セミナー) *	2	
	中国語 I	4	
	中国語 II	4	
	跨文化汉语研讨班 (中国語セミナー) *	2	
	ロシア語 I	4	
	ロシア語 II	4	
	韓国朝鮮語 I	4	
韓国朝鮮語 II	4		
日本語 I	4		
日本語 II	4		

別表 2

外国語学部

	専攻外国語	第2外国語（教養教育外国語科目）
英語	TOEIC Listening & Reading Test 800 点以上	TOEIC Listening & Reading Test 730 点以上
フランス語	実用フランス語技能検定試験準 1 級以上	実用フランス語技能検定試験 3 級以上
スペイン語	DELE B1 以上	DELE A1 以上
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験 2 級以上	ドイツ語技能検定試験 4 級以上
中国語	中国語検定試験 2 級以上	中国語検定試験 3 級以上
ポルトガル語	CAPLE（外国語としてのポルトガル語検定試験）DEPLE 以上 または、Celpe-Bras（外国人のためのポルトガル語検定試験）Intermediário 以上	CAPLE（外国語としてのポルトガル語検定試験）CIPLE 以上または、「ポルトガル語Ⅱ」で A 評価を 4 単位以上
ロシア語		ロシア語能力検定試験 4 級以上 または、「ロシア語Ⅱ」で A 評価を 4 単位
韓国朝鮮語		ハングル能力検定試験 3 級以上、 または韓国語能力試験 3 級以上
日本語		日本語能力検定試験 N1 合格

日本文化学部 教育福祉学部 看護学部 情報科学部（いずれか 1 言語について達成の必要有）

英語	TOEIC Listening & Reading Test 550 点以上
フランス語	実用フランス語技能検定試験 4 級以上 または、フランス語Ⅰ、Ⅱで A 評価を 4 単位以上
スペイン語	DELE A1 以上 または、スペイン語Ⅰ、Ⅱで A 評価を 4 単位以上
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験 4 級以上 または、ドイツ語Ⅰ、Ⅱで A 評価を 4 単位以上
中国語	中国語検定試験 4 級以上または、中国語Ⅰ、Ⅱで A 評価を 4 単位以上
ポルトガル語	CAPLE（外国語としてのポルトガル語検定試験）CIPLE 以上 または、ポルトガル語Ⅰ、Ⅱで A 評価を 4 単位以上
ロシア語	ロシア語能力検定試験 4 級以上 または、ロシア語Ⅰ、Ⅱで A 評価を 4 単位以上
韓国朝鮮語	ハングル能力検定試験 5 級以上または、韓国語能力試験 1 級以上 または、韓国朝鮮語Ⅰで A 評価を 4 単位
日本語	日本語能力検定試験 N1 合格（留学生対象） または日本語Ⅰ、Ⅱで A 評価を 4 単位以上

備考

注 1：検定試験は、本学在籍中に受験したものに限る。

注 2：TOEIC Listening & Reading Test については公開テスト、あるいは、本学で受験した IP テストに限る。

1.2 iCoToBa における学習支援

本学のグローバル実践教育を推進し、多文化共生社会で活躍できる力を身につけるために、iCoToBa では、以下のような外国語学習支援と異文化理解および異文化交流のための活動を行っている。

1. 外国語学習支援（第 2 章参照）

目的別、レベル別に 5 種類の語学講座（留学前準備講座、英語コミュニケーション講座、地

域コミュニティ言語講座、語学検定試験対策講座)と、個別指導を行う iContact(あいこんたくと)を開講している。それぞれの内容を表 1 に示す。

[表 1 iCoToBa における外国語学習支援]

講座名称	内容
留学前準備講座	留学に必要となるアカデミックスキルや、留学先の日常生活に必要な知識や会話能力を養成する講座
英語コミュニケーション講座	外国語を専門としない学生も受講しやすいように、CEFR の A1 レベルから C1 まで、多様なクラスを設定した講座
地域コミュニティ言語講座	愛知県を中心とする地域でニーズの高い外国語(ポルトガル語など)を中心に、外国にルーツを持つ人々への円滑な対応を目指す。専門職業分野にも特化した講座
語学検定対策講座	TOEIC、TOEFL、IELTS その他語学検定試験対策講座
iContact	外国人教員(予約制)および留学生による個別指導

2. 留学報告会(第 3 章参照)

学生の留学への動機づけを目指した、留学体験談を聞くイベントである。週に一度、昼休みに開催している。

3. 国内外のグローバル・ 이슈を学ぶ、グローバルセミナー(第 4 章参照)

本学の専任教員を中心に、国内外のグローバルな文脈における研究や、研究に関連した活動、または、海外生活で得た経験などを紹介するセミナーである。全学教員の協力により、さまざまなテーマを取り上げている。1 回完結型で凝縮された内容を扱っており、学生のみならず教職員の参加も多い。

4. 異文化理解・交流イベント(第 5 章参照)

外国の文化を紹介・体験するイベントや、本学留学生や近隣機関との交流イベントなどを開催している。異文化を理解し、外国語でコミュニケーションする機会にもなっている。また、これらの多くのイベントは、企画段階から学生も参加しており、学生の自主性や行動力、マネジメント能力育成も目指している。

5. 地域社会と連携した学習機会の提供

地域産業界や自治体等と連携し、地域社会における課題解決を目指した学習機会や地域でのボランティア活動の機会を学生に提供している。

6. 学生活動の支援

学生の自主的な活動を貴重な学習経験と捉え、iCoToBa では、学生による企画立案・実施を推奨、サポートしている。現在、学生の自主活動グループ iCoToBa Supporters Club (ISC) が組織化され、iCoToBa の運営に積極的に参画している。

2 iCoToBa での語学教育

iCoToBa では、外国語教育の目的として、①留学準備、②全学の英語力の強化、③多文化共生社会に必要となる専門性を活かすための外国語コミュニケーション能力養成に重点を置いている。このような目的のもと、2025 年度に iCoToBa では「留学前準備講座」、「英語コミュニケーション講座」、「地域コミュニティ言語講座」、「語学検定試験対策講座」が開講された。iCoToBa の語学講座は、1 学期に 13 コマ行うものと、外国語を専攻としない学生にも学びやすいよう、5 コマで 1 セットや 10 コマで 1 セットのコースもある。

また、愛知県をはじめとする東海地域は、外国人居住者が多い地域であり、私たちは社会のあらゆる場面で外国人とのコミュニケーション場面に遭遇する。そこで、看護師、介護士、教師、公務員などを目指す学生を対象に「地域コミュニティ言語講座」を開講している。2025 年度は、スペイン語、中国語、韓国朝鮮語、ベトナム語講座を開講した。

これらの講座に加えて、個別指導を行う iContact(あいこんたくと)も実施した。

以下、2025 年度に iCoToBa で開講した語学講座について報告する。

2.1 iCoToBa 開講講座一覧

2025 年度に iCoToBa で開講した語学講座を、表 2～5 に示す。表内の「レベル」はヨーロッパ言語共通参照枠(Common European Framework of Reference: CEFR)によるものである。それぞれのレベルの目安は、A1:初級、A2:初中級、B1:中級、B2:中上級、C1:上級、All Levels はレベルに関係なく受講できる科目である。

[表 2 2025 年度 iCoToBa 開講 留学前準備講座]

開講時期	科目名称	各言語科目名称	レベル	受講者数
前期	英米における歌と社会	Songs and Society in the U.S. and Britain	B1-C1	10
前期	スペイン語 DELE B1 の準備をしよう!	¡Listos para el DELE B1!	A2-B1	21
前期	ドイツ語・留学前準備講座	Vorbereitung auf das Auslandsstudium	A2	4
後期	英米における歌と社会	Songs and Society in the U.S. and Britain	B1-C1	2
後期	スペイン語 DELE B1 の準備をしよう!	¡Listos para el DELE B1!	A2-B1	4
後期	DELF B2 準備講座+留学後会話練習	Préparation au DELF B2 et pratique de la conversation	B1-B2	5

後期	中国社会と大学生のキャンパスライフを知ろう！	了解中国社会和大学生生活	A2-B1	5
----	------------------------	--------------	-------	---

[表 3 2025 年度 iCoToBa 開講 英語コミュニケーション講座]

開講時期	科目名称	各言語科目名称	レベル	受講者数
前期	やり直し英会話	Step into English Conversation	A1-B1	20
前期	中級の壁を破ろう！	Step up in English Conversation	B1-C1	8
前期	文法と発音をやっつける！	English Conversation 1	A1-B1	28
前期	英会話を極める！	English Conversation 2	B1-C1	13
後期	やり直し英会話	Step into English Conversation	A1-B1	5
後期	中級の壁を破ろう！	Step up in English Conversation	B1-C1	6
後期	文法と発音をやっつける！	English Conversation 1	A2-B2	9
後期	英会話を極める！	English Conversation 2	B1-C1	4

[表 4 2025 年度 iCoToBa 開講 地域コミュニティ言語講座]

開講時期	科目名称	受講者数
前期	文化・生活分野スペイン語入門講座	3
後期	教育分野スペイン語入門講座	1
前期	文化・生活分野中国語入門講座	6
前期	観光・文化分野韓国朝鮮語講座入門編	7
後期	観光・文化分野韓国朝鮮語講座	9
前期	観光・文化分野ベトナム語入門講座	9

[表 5 2025 年度 iCoToBa 開講 語学検定試験対策講座]

開講 時期	科目名称	受講者数
前期	TOEIC 対策:英語力強化講座	15
後期	TOEIC 対策:英語力強化講座	11
後期	TOEIC 対策直前講座	20
前期	ポルトガル語:CAPLE に挑戦しよう!	2
後期	ポルトガル語:CAPLE に挑戦しよう!	2
後期	フランス語:ネイティブによる仏検 1 次試験対策講座	4
後期	スペイン語:DELE B1 の準備をしよう!	4
後期	中国語:中国語検定試験 3 級合格を目指そう!	2
後期	オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験および CEFR 対策講座	4
後期	日本語能力検定試験対策講座(留学生対象)	2

2.2 講座内容

2.2.1 留学前準備講座

【英語】

Songs and Society in the U.S. and Britain 米英における歌と社会

Instructor: Edgar Wright POPE

Period: Spring & Fall Semester, Thursday 4th period

授業目的 / Aim of the class:

歌詞を読みながら歌曲を聴き、歌とその社会的・歴史的背景についてディスカッションを行うことで英語力を鍛えたい学生のためのクラスです。社会的状況と歌手やソングライターの個人的な関心という文脈で歌について議論することによって、学生は知識と会話能力を発展させます。また、歌詞を学ぶことによって語彙の知識と文法の理解も上昇します。

授業内容 / Course content:

各クラスでは、教師は歌詞のプリントを配った上で歌曲の音源を聴かせ、曲の背景と文脈を説明する。その後フリーディスカッションを行います。授業の最後の数回では各学生が自分で選んだ歌曲について発表し、発表の後ディスカッションを行います。教師が選ぶ曲は主に1960~70年代のアメリカとイギリスのフォーク・ソングとポピュラー・ソングにしますが、学生の発表内容は英語の歌曲であれば自由です。

今期の総括と課題 / General overview and agenda:

今期は 7 名の学生が積極的に参加し、所属は中国学科、国際関係学科、ヨーロッパ学科、英米学科、国際文化研究科でした。教師が選んだ歌曲は 1960~70 年代のフォーク系のものでしたが、学生たちは 1960 年代から 2010 年代にかけてのフォークやロック、ポップスなどの幅広いものについて発表しました。学生たちの英語レベルにはある程度ばらつきがあったものの、ディスカッションが活発で、学生たちから歌詞の解釈や歌曲の社会的背景についての鋭い指摘が沢山でました。授業アンケートからは、すべて英語で行う授業で複数の学科・研究科の学生同士が歌曲と社会について話し合うことが授業目的に関して効果的だったと思われる。

【フランス語】

Préparation au DELF B2 et pratique de la conversation

DELF B2 準備講座 + 留学後会話練習

担当: Karine ZIMMER

授業時間: 後期 火曜 5 限

授業目的:

留学から帰国後の語学力の維持、DELF B2 受験準備および留学前（主に 2 年前期~3 年前期）の学生への留学準備

授業内容:

1. 授業の紹介-学生達の会話レベル確認+ DELF B2 準備講座
2. DELF B2 準備講座
3. DELF B2 準備講座
- 4.~13. 会話練習

今期の総括:

今期にこのクラスに参加した学生達の多くは、留学先から戻ってきたばかりでした。

会話レベルが高く、会話能力をさらに発展させる授業を行いました。

発音と難しい文法を直したり、フランス人が日常会話で頻繁に使っている表現の紹介や、使い方の説明をしました。それらを沢山練習したことにより、学生達が自信をもって DELF 受験に対応できました。

【スペイン語】

DELE B1 の準備をしよう! ¡Listos para el DELE B1!

担当: Marc LLOVET FERRER

授業時間: 前期・後期 木曜 3 限

授業目的:

5 月または 11 月に行われる DELE スペイン語検定試験で A2 または B1 合格を目指し、読解、会話、聴解、文章の練習をすることを目的とする。

授業内容:

DELE スペイン語検定試験の 4 技能、読解力・聴解力・ライティング・スピーキングの向上の

ため、毎週、スペイン語の復習と上達のための演習を行う。自宅で取り組むための1つのスキルを宿題とする。

今期の総括:

今期は、多様な背景を持つ学生にご参加いただいて、面白くて横断的な授業でした。B1 または A2 を受けようとしている学生、既に B1 を取得している学生、スペイン語圏の国に留学して戻った学生、そしてスペイン語を第二外国語としている学生も参加して、お互いに助け合いながらスペイン語能力を改善しました。最初に、学生は DELE B1 試験の内容をかなり難しく感じていましたが、少しずつ慣れていって、内容理解と点数の両面で向上が見られたと思います。講師としては、学生にとって試験のどの点が難しいのかについての理解を深めるとともに、それらの点を学生がうまく克服できるよう支援するための方法を、改善していきたいと思います。

【ドイツ語】

Vorbereitung auf das Auslandsstudium (留学前準備講座)

担当: Martin NIERS

授業時間: 前期 月曜 5 限

授業目的:

海外での生活を希望する学生とはいえ、レベルや特性、モチベーションは様々。授業では、それぞれが外国や異文化に興味を持てるように心がけ、学生が現地で困らないよう実際の生活の様々な場면을切り取った練習をし、生活の準備をした。SIM カードの入手方法や銀行口座の開設、チップの渡し方や今後外国で仕事をする際にも助けになるような授業を行う。今年には特に、円からユーロへの換金レートや送金の方法、振り込みや貯金また節約の仕方などのアドバイスをした。リーズナブルな食事や安く食材を手に入れる方法など、生活に必要な項目にふれた。また、現地でのアルバイトについてもテーマとして取り上げた。

授業内容:

二つの都市と二つの地域についてインターネットを使った調査、情報収集を行った。普段の生活の為に必要なアプリを解説。大学やそのアプリ、留学生向けの割引などの情報、そのための単語や表現、交通や住居、余暇の過ごし方などを説明。日本とは違い、一つ一つアプリが必要になるので、その点についても国際文化比較を行った。

今期の総括と課題:

時代は変わっていく。今のヨーロッパの大きな話題はオーバーツーリズムである。外国人としての居住者や変わりゆく政治、戦争。留学生としてドイツで最も良い時間を過ごすためのヒント。二つの都市の考え方の違いや多様な人種の共存。その中でどのようにドイツへの見識を深めるかを念頭に授業に臨んだ。

【中国語】

中国社会と大学生のキャンパスライフを知ろう!

担当: 鄧 秀

授業時間: 後期 水曜 3 限

授業目的:

留学前の準備として、学生が中国社会および中国の大学生活について理解を深めることを目的としています。

授業内容:

1 留学と中国について話しましょう 2 中国の概況 地理 人口等 3 中国のネット文化と新しい語彙 4 食文化 5 伝統的な祝日 6 中国の大学について 7 大学受験 8 大学、留学生の入学手続き 9 大学の授業と軍事訓練 10 キャンパス生活 宿舎 食堂等 11 休みの過ごし方、週末、冬休み・夏休み等 12 キャンパスの恋愛 友情 趣味 13 アルバイト 以上のテーマは日本の事情と比較しながら、資料を読んだり、話したりをして、授業を進めました。

今期の総括と課題:

留学前の準備として、学生が中国社会の制度、文化、生活習慣への理解を深めたとともに、中国の大学における学習環境や学生生活について具体的に把握すること、合わせて、中国語の基礎的な運用能力の向上を図りました。この授業により、学生が留学後の学習および生活両面において円滑に適応し、主体的に留学生生活を送ることができるように支援した。

2.2.2 英語コミュニケーション講座

Step into English Conversation

Instructor: Ngaire Anne KEENAN

Period: Spring & Fall Semester, Monday 2nd period

End-of-Semester Review:

This was a lovely, hardworking class and the students all had a good attitude and were willing to overcome their shyness to improve their communication skills.

Attendance was a little patchy which is understandable given the students' need to prioritise their studies. However those who attended regularly and participated fully in activities improved their speaking and listening significantly.

I really enjoyed teaching this class!

Step up in English Conversation

Instructor: Ngaire Anne KEENAN

Period: Spring & Fall Semester, Tuesday 2nd period

End-of-Semester Review:

This class was a mix of levels, academic majors and year of study. The students quickly overcame shyness and a friendly cooperative atmosphere was established between the students themselves very quickly.

Attendance was a little hit and miss (due to various understandable factors) and although this will have had some effect on the confidence of less frequent attendees, the communication level of the class remained high and improved vocabulary is definitely a highlight.

A very fun class to teach!

English Conversation 1

Instructor: Damien OKADO-GOUGH

Period: Spring & Fall Semester, Wednesday 3rd period

Objective:

- To increase students' communicative confidence in English
- To build spoken fluency to approximately 100-120 wpm (approx. 80% native speed)
- To increase students' spoken grammar complexity and accuracy across the three tense/aspect groups. Grammar focus to include proper tense use, subject verb agreement, sentence structure, articles, and plurals.
- To increase students' vocabulary range and level of appropriateness on matters relating to school, work, leisure, experiences and events, family, friends and colleagues, hopes, dreams, ambitions, and plans, as well as expressing opinions and give reasons for them
- To assist the students towards proficiency in the pronunciation of the /θ/ & /ð/ (th), /r/ and /l/, /f/ and /v/, /w/, and /ʃ/ (s) phonemes.

Course Contents:

- Group and pair discussions on various topics
- Pronunciation instruction and practice
- Intensive reading using texts from media and academic sources
- Extensive reading using graded readers
- Presentations and discussions based on analysis of graded readers
- Wider cultural education using music and film

General overview and agenda:

Those who attended regularly were able to participate in most or all of the planned activities, but there were only a few who attended more than 10 classes. The graded readers were popular, with students reading several books and doing presentations to the other students about the contents of the books, such as plot, setting, character analysis, and so on. Students focused well on the pronunciation activities and were enthusiastic about regular practice and gaining mastery. Some students were so enthusiastic about the contents of the classes in general that they also attended the following class in the 4th period.

The challenge for this class was following a progressive syllabus given the sporadic attendance of some students. It became necessary to try to find a balance between ensuring elements of a progressive syllabus and introducing stand-alone activities which in turn could compliment or support the syllabus. If students can see clearly defined goals and a pathway to achieving those goals, they are more inclined to attend. With that said, those who did attend regularly showed a high level of motivation towards increasing their English communication skills.

English Conversation 2

Instructor: Damien OKADO-GOUGH

Period: Spring & Fall Semester, Wednesday 4th period

Objective:

- To increase students' communicative confidence in English.
- To build spoken fluency to approximately 120-150 wpm (approx. native speed)
- To increase students' spoken grammar complexity and accuracy.
- To increase students' vocabulary range and level of appropriateness on matters relating to topics relating to current affairs, personal lives, media, literature, and other topics that students consider interesting.
- To assist the students towards proficiency in the pronunciation of the /θ/ & /ð/ (th), /r/ and /l/, /f/ and /v/, /w/, and /ʃ/ (s) phonemes.

Course contents:

- Group and pair discussions on various topics
- Pronunciation instruction and practice
- Intensive reading using texts from media and academic sources
- Extensive reading using graded readers
- Presentations and discussions based on analysis of graded readers
- Wider cultural education using music and film.

General overview and agenda:

The students attending this class were noticeably higher level than many of the students from the 3rd period, although there was an overlap in attendance. They were also often older, which resulted in a higher level of interest in current affairs. This allowed for more group discussions on complex matters and greater vocabulary cover. It was a smaller group, which had a good communicative dynamic, so conversation activities flowed very well, although there was sometimes a willingness to rely more on my explanation of more complex matters in order to experience more complex grammar.

Similarly to the 3rd period class, it was too difficult to follow a progressive syllabus because of the sometimes sporadic attendance. One activity that allowed for continuum was the extensive reading of graded readers, which we often read as a group in class. The graded readers were higher level in this class, and allowed for discussions on more complex language such as metaphor and idioms. The challenge for the next semester, again, is to achieve a level of progression through the semester whilst employing many stand alone activities that do not require weekly attendance to understand or participate in.

2.2.3 地域コミュニティ言語講座

スペイン語でマンガを読もう！ ¡Vamos a leer historietas en español!

担当： Yáñez Rosado Juan Antonio

授業時間：前期月曜（5月19日、26日、7月14日3限、7月7日3・4限）

授業目的：

- ◆中南米・スペインの代表的な漫画を知る。
- ◆スペイン語圏の社会的言語変異をより深く知る。

- ◆スペイン・中南米の人々の考え方を理解する。
- ◆日本の漫画との違いや共通点を発見する。
- ◆スペイン語の新しい語彙と表現を身につける。

授業内容:

- 第1回 スペイン語圏の漫画入門 / 漫画と特異性
- 第2回 日常生活生を教えてくれる漫画
- 第3回 社会を批判する漫画①
- 第4回 社会を批判する漫画②
- 第5回 皮肉たっぷり漫画

教育分野スペイン語入門講座

担当: 金箱 亜希

授業時間:後期金曜3限 (11月14日、21日、28日、12月5日、12日)

授業目的:

教育現場において、スペイン語圏の児童生徒や保護者を支援する際に必要な知識、語彙や表現を学ぶ。また、他国の教育システム、家族観や文化的な物事の捉え方を学ぶとともに通訳や翻訳をする際に注意する点を理解する。

授業内容:

- 第1回 「外国人児童生徒の背景」と「持ち物の言葉」
- 第2回 「教科用語と生活言語の違い」と「行事の言葉」
- 第3回 「母語の大切さ」と「教科の言葉」
- 第4回 「教育制度の違い」と「進路の言葉」
- 第5回 「海外のナショナルカリキュラム(チリ)と教育制度の言葉」

今期の総括と課題:

今年度は受講者が1名であったため、受講者のスペイン語能力や関心に応じた柔軟な授業運営を行った。授業では、単に翻訳や通訳ができることを目標とするのではなく、教育現場で実際に求められる言語運用能力の育成を重視した。とくに、学校現場や教育行政の場面で用いられる特有の語彙や表現を理解し、それらを文脈に即して的確に訳出する力を身につけることを目標とした。また、現場で必要とされる知識や視点をテーマ別に取り上げ、具体的な事例を交えながら学習を進めた。受講者にとっては、教育分野におけるスペイン語運用能力を高めると同時に、言語と教育制度、文化的背景との関係について理解を深める機会となることを意図した。

文化・生活分野中国語入門講座

食文化から学ぶ中国語講座

担当: 方 曉娟

授業時間:前期火曜4限 (6月3日、10日、17日、7月1日、8日)

授業目的:

身近な食文化からスタートして、簡単な中国語を勉強すると同時に中国料理と文化の奥深さを知る。

授業内容:

中国語のフレーズを学び、簡単な会話練習を行います。

主に中国の食文化を中心に、いくつかのテーマに分けて進めます。

各テーマの内容はそれぞれ独立しています。

第1回 中国料理「料理名を中国語で言えますか」

第2回 中国の点心「食べたことがありますか」

第3回 中国のお茶「美味しいですか」

第4回 中国の米と麺料理「上手に作れますか」

第5回 中国本場の水餃子作りに挑戦する

今期の総括と課題:

学生達は中国の食文化を楽しみながら言語や文化を学ぶことができた。

これからはその他の料理も作れるならより良いと思います。

観光・文化分野 韓国朝鮮語 CoTo はじめ～入門編～

担当: 金 芝恵

授業時間:前期金曜2限 (6月6日、13日、20日、27日、7月4日)

授業目的:

この講座は、ハングルが読める学生を対象に、基本的な会話力を身につける入門コースです。あいさつや自己紹介、数の数え方、買い物・注文の表現など、日常でよく使う韓国語を学びます。ペアワークやロールプレイ、ネイティブ講師との練習を通して、実践的に話す力と自信を養います。K-POP や韓国ドラマなどの文化にも触れ、楽しみながら学べることを目標とします。

授業内容:

第1回 韓国語で挨拶と自己紹介をしてみましょう

第2回 韓国語の数字を言ってみましょう

第3回 物の数え方を韓国語で学びましょう

第4回 カフェでの注文の仕方を練習しましょう

第5回 レストランでの注文の仕方を学びましょう

今期の総括と課題:

今回の授業に参加してくれた学生は、韓国語や韓国文化に関心を持つ人が多く、K-POP が好きな学生もたくさんいたため、授業はとても進めやすいものでした。ゲームやロールプレイでは、それぞれが工夫を凝らしたオリジナルの内容を用意し、積極的に参加してくれたおかげで、教師の方も毎回楽しく授業を行うことができました。最後にはクラス全員がすっかり打ち解け、「もっと時間があつたら、いろいろな話を続けられたのに」と感じるほどでした。ただし、参加した学生のレベルには差があり、それぞれに合わせて話題を振ったり声をかけたりするのは少し大変な面もありました。

観光・文化分野 韓国朝鮮語 CoTo はじめ

Real-life Korean Conversations for Beginners

일상 속 진짜 자연스러운 한국어 대화

担当：姜 信和

授業時間：後期水曜 4 限（10 月 22 日、11 月 5 日、12 日、19 日、26 日）

授業目的：

本授業は、韓国の日常生活で用いられるカジュアルで自然な韓国語表現を身につけることを目的とし、カフェやレストランでの注文、買い物や待ち合わせなどの場面で必要となる数字の教え方などを中心に扱った。あわせて映像資料を通して、言語使用の背景にある韓国の流行や文化的特徴を紹介した。また、基礎的な発音理解を補強するため、母音・パッチム・長短音の発音上の基礎事項について、日本語との違いを意識しながら確認する機会を設けた。

授業内容：

本講座では、日常生活の場面を想定し、カフェやレストラン、買い物、デリバリーなどの具体的な状況に即した会話練習を中心に行った。必要に応じて映像資料を用いながら、受講者同士のロールプレイを通して、実際の使用場面を意識した学習を行った。各回のテーマは以下のとおりである。

全体テーマ 일상 속 진짜 자연스러운 한국어 대화

Real-life Korean Conversations for Beginners

各回のテーマ

第 1 回 カフェで

第 2 回 レストランで

第 3 回 マートで

第 4 回 韓国コスメを買う

第 5 回 デリバリーにも挑戦

今期の総括：

授業後のアンケートによれば、独学で学んできた韓国語を授業形式で学びたい、実生活で使える実践的な表現に触れたいといった受講動機が多く見られた。講座内容については、日常の場面に即して分かりやすく、少人数で発言や質問、会話練習がしやすかった点が肯定的に評価された。一方で、全 5 回では物足りず、回数の増加やレベル別講座を望む声も寄せられ、本講座への継続的な学習ニーズの高さがうかがえた。

なお、本講座は受講生の応募状況を踏まえた形で実施されている。少人数での開講となる場合においては、大学側に対して心苦しく感じる点もあるが、その分、対話を重視した丁寧な授業運営が可能であった。今後も講座内容の充実を図りつつ、より多くの受講希望者に関心を持ってもらえるよう努めていきたい。

初めてのベトナム語入門講座

担当：グエン タン タム

授業時間：前期金曜 12:05-12:50 全 10 回

授業目的：

- ベトナム語の表記と発音の基本を知り、読むことができる。
- ベトナム人と挨拶し、友達関係を築くことができる程度の簡単なやりとりができる。

- 日本の周辺国の一つであるベトナムの国・人・文化に親しみ、友好的な姿勢を育む。

授業内容:

本講座の内容はベトナムとベトナム語に興味を持つ学生の関心に応じて、作成したものであります。授業では映像化のパワーポイント教材を使用し、ベトナムについての知識及びベトナム語の基本・日常会話といった2つの内容を伝えていきます。

各回のテーマは下記の通りであります。

第1回 ベトナムの基本知識・あいさつ

第2回 ベトナムのユニークな所・自己紹介

第3回 ベトナムの料理・注文

第4回 ベトナムの旅行・買い物

第5回 ベトナムの若者のライフスタイル・友達づくり

今期の総括と課題:

本講座では、短期研修でベトナムを訪れる受講生や、ベトナムに関心を持つ受講生に向けて、ベトナム語とベトナムの基礎知識を楽しく学べるよう工夫しました。写真や動画を用いて自然・文化・歴史を紹介し、受講生の関心に応じた解説を行いました。発音練習では声調や音節に苦戦する場面もありましたが、繰り返し練習することで、簡単な文を正しく読めるようサポートしました。また、実用的な会話表現も導入し、挨拶や注文、値段の尋ね方などをペア練習を通じて身につけてもらいました。

2.2.4 語学検定試験対策講座

英語力強化講座

担当: 福田 薫

授業時間: 前・後期 月曜4限 (4月21日～1月26日 全26回)

授業目的:

- ・リスニング、スピーキングを中心とした英語運用能力の向上
- ・その付随的な結果としての TOEIC 等資格試験のスコア向上

授業内容:

週ごとのトピックに基づき、ディクテーション、ディスカッション、音読、長文読解、英作文等の様々な語学演習を適宜実施し、英語4技能を伸ばす。特にリスニングおよびスピーキングの発展に重点を置く。また、英語のみならず、現代人としての素養も身に付けられるよう、21世紀を生きる者が考えるべき問題に関する世界各国・地域での事例をトピックとする。各回の授業内容は受講者のニーズ等によって変更・調整する可能性がある。

今期の総括と課題:

今年度は英語4技能の発展を目指すにあたり、我々の生きる現代世界に対する理解を深められるトピックを選んだ。具体的には世界各国・地域における植民地主義とその影響に関する内容を2週ずつにわたって英語で学ぶ形式とし、前期では6か国・地域、後期では4か国・地域を取り上げた。

実際を受講者には学部1年生が多かったため、内容やボリュームが合わないことを懸念したが、結果として、1年生も相応の理解ができたように思われる。リーディングでは700ワード程度の文

章を扱ったが、毎回、対象国・地域のごく基本的な背景情報について事前に各自が調べることで、円滑な導入が図れた。リスニングも一定のボリュームがあるものを用いたため、トランスクリプトを用意して適宜利用し、聞き取る際の補助とした。なお、前期ではシラバス通り、2 週ずつ各国・地域を取り上げるペースで実施したが、時間が不足することがあったため、それを踏まえて後期は少しペースをおとし、ディスカッションやプレゼンの時間をより多く取れるようにした。

ディスカッションでは、ある程度文法的にも正しく、論理的な話を交わす練習の場を想定していたが、まずは英語で話すことに慣れるという段階での練習が必要なケースもあり、全般的な傾向としてやはりリーディングやライティングに比べてリスニング、スピーキングは苦手なことが窺えた。こうした各受講者の背景の違いを広く掬い取れるようにしたいと考える。

TOEIC 対策直前講座

担当：福田 薫

授業時間：後期水曜 3・4 限（12 月 3 日、10 日、17 日）

授業目的：

TOEIC のスタイルに慣れ、スコア向上を目指す。

授業内容：

リスニングやリーディングのスキル改善を図るため、TOEIC 公式問題集等の練習問題に取り組む。

自己のスキルの現状や弱点を把握するため、TOEIC と同様の形式での試験（模擬試験）を実施する。

今期の総括と課題：

TOEIC 試験直前の短期集中講座という性質を考慮し、本講座では実際の TOEIC 形式での練習問題に特化して取り組んだ。短期でのスキルアップはなかなか難しいかもしれないが、TOEIC を受けたことのない受講者も多かったため、TOEIC のスタイルや頻出語彙に慣れることを目指した。一回でも多く TOEIC 受験経験を積んで問題の形式や雰囲気慣れることができるよう、模試を実施した。また、リスニング力アップに向けた TOEIC 練習問題のディクテーションも適宜おこなった。スケジュールに余裕がない学生や、英語力の涵養よりはむしろ TOEIC スコア自体を意識する学生からは、試験直前の短期集中という方式に対して一定程度モチベーションやニーズがあり、それらに応えられたように思われる。

フランス語：ネイティブによる仏検 1 次試験対策講座

担当：田所 シルヴィ

授業時間：後期木曜 5 限（10 月 16 日、23 日、30 日、11 月 6 日、13 日）

授業目的：

実用フランス語技能検定試験、通称仏検の 1 次試験受検を考えている学生の準備を補助するための授業である。

授業内容：

まず仏検の過去問を利用し、実際に解答を試みてもらう。その結果について、個別に対応する。

今期の総括と課題:

アンケート結果を見ると、全員満足度が高かったので、授業としてはうまく進められたのではないかと感じている。今年度も、3級志望者がおらず、準2級と2級志望者だけであったので、授業は進めやすかった。

アンケートでは、回数をふやしてほしい、という声も上がっていた。1次試験合格者は2次試験を1月に受験することになるが、これは口頭試験であり、この準備にはネイティブ教員の補助の必要性がいっそう高いように思われる。そこで、実際には、11月13日に対策講座終了後、希望者には二次試験対策を2回ほど行った。

DELE B2 の準備をしよう!

担当: アレハンドラ ゴンザレス

授業時間: 後期金曜 5 限 (10月17日、24日、11月7日、14日、21日)

授業目的:

スペイン語試験 DELE レベル B2 の勉強。

授業内容:

毎週 B2 の練習テストを実施します。

今期の総括と課題:

授業には 2 人の学生がいました。2 人とも留学経験があり、とても熱心に授業に取り組んでいました。授業中はよく勉強し、毎週課題もこなしていました。この授業が B2 試験対策に役立ったと思います。

オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験および CEFR 対策講座

担当: ニアス マーティン

授業時間: 後期月曜 5 限 (10月20日、27日、11月10日、17日、24日)

授業目的:

学生のゲーテテストと OESD テスト準備。センター試験や独検、仏検、英検や TOEIC のような日本のテストを分析する。どんなテストなのか、ドイツのテストとはどう違うのか。

授業内容:

4スキルズ(話す、聞く、書く、読む)をトレーニングする練習問題や模擬テストを使用する。特に難しい聞き取りに重点をおいて学習する。テストの場面練習を二人でシミュレーションする。よりよく勉強するための技術を学ぶ。プライベートでの準備や学習の方法を教授。活用できるデジタルメディアの紹介。

今期の総括:

学生のモチベーションはテストを本気で受けるのかどうかによって違いが大きかった。名古屋ではどちらのテストも受けることはできず、東京へ行かなければならない。テストの為の講座ではあるが、テストを受けないとしても日常生活で使える語学を学ぶことができる。学生はよくついてきており、喜んで取り組むことができていた。彼らにとっても良い時間を得られたと思う。

CAPLE(外国語としてのポルトガル語検定試験)に挑戦しよう!

Vamos prestar o CAPLE!

担当: メロ ワジソン

授業時間: 前期・後期 水曜 4 限 (5 月 14 日～11 月 26 日 全 15 回)

授業目的:

ヨーロッパ言語共通参照枠の A2 レベルのポルトガル語能力を測定し認定する CIPLE という CAPLE (外国語としてのポルトガル語検定センター) の試験対策を教える。

授業内容:

ポルトガルのポルトガル語を扱う試験であるから、最初はブラジルのポルトガル語を主に勉強してきた学生のために、ポルトガルのポルトガル語を扱うテキストや生教材を使いながら、多くの練習を行い、両国のポルトガル語の違い(文法、語彙、発音など)を覚え、ポルトガルのポルトガル語に慣らす。その後、過去にあった CIPLE の試験を使い、試験問題を解説する。

今期の総括:

今回の履修者は、CIPLE 試験対策そのものよりも、ポルトガル語による実践的な会話練習への関心が高く、授業内の対話活動や意見交換を通じて、実際に「使う」ポルトガル語を学びたいという姿勢が顕著に見られました。特に、将来的には試験対策に限定されない、会話力の向上を主軸とした授業形態への要望が多く寄せられ、使用言語としてはブラジルのポルトガル語への関心が高い傾向が確認されました。一方で、CIPLE はヨーロッパ・ポルトガル語を基準とする試験であるため、試験準備と学習者のニーズとの間に一定のギャップが生じる場面も見られました。今後は、試験対策科目と並行して、学習者の関心や学習動機を踏まえた会話中心の科目や、ブラジル・ポルトガル語に焦点を当てた実践的な授業の設置を検討することが、学習継続意欲の向上やポルトガル語運用能力の定着につながると考えられます。

中国語: 中国語検定試験 3 級を目指そう!

担当: 鄧 秀

授業時間: 後期水曜 4 限 (10 月 15 日、22 日、29 日、11 月 5 日、12 日)

授業目的:

中国語検定試験 3 級合格を目指す。

授業内容:

具体的な内容としては過去問を使った勉強する、①発音: ピンイン・四声の識別 ②語彙: 基本単語の意味、用法、③文法: 基本文型、語順、助動詞、④読解: 短文、簡単な会話の理解、⑤リスニング、日常会話の聞き取り等。

今期の総括と課題:

この授業は学生が中国語の基礎学習を通じて、発音・語彙・文法の基本を体系的に習得し、日常的な話題について、聞く、読む、話す、書くの基礎的な運用能力が身につく、自分の考えや状況を無理のない中国語で表現できる段階の到達に支援しました。

日本語能力検定試験対策講座

担当: 都築 順子

授業時間: 後期水曜 3 限 (10 月 29 日、11 月 5 日、12 日、19 日、12 月 10 日)

授業目的:

初回授業で受講者の希望を確認したところ、2名ともに既に日本語能力試験1級(N1)に合格しているが、来年7月に再度受験するため、N1レベルの維持・レベルアップを図りたいとのことだった。

そのため、N1の実践問題の演習を通して、それぞれの問題の解き方に慣れるとともに、各自の課題の再点検を行うこととした。

授業内容:

実際の試験時間でN1の実践問題を解かせ、その後、解答を確認し、受講者から質問のあった問題については解説をするという方法で授業を行った。

受講者の希望で言語知識(文字・語彙・文法)・読解、聴解全ての試験科目を順に行った。1回目:文字・語彙、2回目:文法・読解 第1問、第3回:読解 第2問~第6問、第4回:聴解 第1問~第2問、第5回:聴解 第3問~第5問

また、実践問題に関連した事項についても、受講生から質問があった場合は随時解説を行った。

今期の総括:

今期は、前期の反省を踏まえて、初回授業で受講者のニーズ分析を十分に行った。そのため、受講者の希望をしっかりと把握できた。

また、今期は受講者が少なかったことや受講者のレベルが同じであったことから、授業目的も授業内容も焦点を絞りやすかった。

受講者の声

教育福祉学部 教育発達学科2年 岡本 彩芭

海外の先生による英語力向上のためのこの授業は、全体の空気感がとても温かいところが印象的でした。英語がうまく出てこなくても、先生はわからない部分をフォローしてくださったり、急かすことなく、最後まで説明しようとする姿勢を見守ってくれる温かい環境のおかげで、間違いを恐れずに英語を話そうと思える、積極的に意見を交流しようと思えることができました。また、伝えようとする気持ちを大切にしてくれることで、自分の英語に対する自信にもつながり、これからも語学勉強を継続していきたいと思えるきっかけになったと思います。

(やり直し英会話 受講)

外国語学部 英米学科3年 山田 優穂

私は大学二年生の春休みに短期語学留学をしました。帰国後は英語を忘れないように、毎日一つ以上、英語の四技能(Speaking, Reading, Listening, and Writing)を高めることを目標にしています。本講座はお世話になっている先生が開講していることもあり、迷うことなく参加を決めました。授業よりも自由度が高く、また、先生が話しやすい環境をつくってくださったので、様々な会話をのびのびとすることができました。聞きたいことがあればすぐに聞けるというのも大きな利点だと思います。もっとネイティブと話したい！！と考えている人にこの講座はぴったりだと思います。

(中級の壁を破ろう！ 受講)

国際文化研究科 博士前期課程 2年 唐 瀟

2025年度の前期・後期の両方で、icotobaを通してDamien先生の英語の授業を履修しました。Damien先生はアイルランド出身の先生で、英語の発音がとてもきれいです。毎回授業に出席し、その声を聞くのが楽しみでした。

Damien先生は英語教育の経験も豊富で、授業内容もとても多様です。例えば、英語の曲を聴きながら歌詞の穴埋めをします。ただ単語を入れるだけで終わるのではなく、歌詞に込められたストーリーやニュアンスまで丁寧に教えてくださいました。そのおかげで、たくさんの良い英語の曲を知ることができました。これは私が一番好きな授業内容です。

また、英語の文章を読む読解活動もあります。少し難しい内容もありますが、とても勉強になります。毎回先生が多くの英語の本を持ってきてくださり、レベル別に学生が自由に選び、読んだ内容を口頭で発表します。これは言語学習における「アウトプット」になるため、英語力向上にとっても良い方法だと思います。もちろん強制ではなく、時間がある人が発表する形式なので、安心して参加できます。

私は2026年度も履修するつもりです。私の英語力や語彙力はまだ高くありませんが、毎週Damien先生と話し、友達のように会話できる時間はとても癒されます。

(文法と発音をやっつける！、英会話を極める！ 受講)

外国語学部 ヨーロッパ学科 スペイン語・ポルトガル語圏専攻 2年 水野 来希

学内の授業だけではスペイン語を実践する機会が少ないと感じていた際、本講座を知りました。対象のB1レベルには合格済みでしたが、実力をより確実なものにしたいと考え受講を決めました。

独学では難しいライティング添削やスピーキングの模擬試験官を講師が担ってくれる点は、少人数制のiCoToBa講座ならではの大きな利点です。

スペインとラテンアメリカのアクセントの違いなど、ネイティブの生の声に触れることで、言語の多様性を実感しました。資格取得という枠組みを超え、今後どのようにスペイン語と向き合っていくべきかを再認識できる、非常に有意義な機会となりました。

(DELE B1の準備をしよう！ 受講)

2.2.5 iContact(あいこんたくと)

2025年度のiContactは、教養教育センター外国人教員3名が担当する英語とブラジル政府派遣講師によるポルトガル語、留学生のSA(スチューデント・アシスタント)が担当する言語(フランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語)で実施した。担当した学生は前期16名(フランス語3、ドイツ語1、スペイン語2、ポルトガル語4、中国語5、韓国語1)、後期11名(フランス語2、ドイツ語1、スペイン語3、ポルトガル語1、中国語2、韓国語2)であった。教員とのiContactは、予約時に対面またはオンラインを選択可能とした。オンラインiContactを利用する学生も一定数はおり、オンラインの利点を生かして活用していきたい。2025年度のiContact実施実績を表6、表7に示す。

[表 6 2025 年度前期 iContact 実施実績]

言語	担当	実施回数	参加者数(のべ数)	合計時間
英語	教養英語専任教員	231	195	57.75
ポルトガル語	ブラジル政府派遣講師	72	17	18
フランス語	留学生	42	87	21
ドイツ語	留学生	20	89	10
スペイン語	留学生	23	19	11.5
ポルトガル語	留学生	63	95	31.5
中国語	留学生	70	79	35
韓国語	留学生	16	31	8
合計		537 回	612 人	192.75 時間

[表 7 2025 年度後期 iContact 実施実績]

言語	担当	実施回数	参加者数(のべ数)	合計時間
英語	教養英語専任教員	234	182	58.5
ポルトガル語	ブラジル政府派遣講師	78	45	19.5
フランス語	留学生	41	190	20.5
ドイツ語	留学生	21	27	10.5
スペイン語	留学生	47	136	23.5
ポルトガル語	留学生	1	4	0.5
中国語	留学生	42	84	21
韓国語	留学生	42	74	21
合計		506 回	742 人	173 時間

教員 iContact:1 回 15 分・留学生 iContact:1 回 30 分

Teacher's Voice

Benjamin FILER (Liberal Education Center)

From a personal perspective, this has been a very positive year of iContact sessions, and I hope students also found them useful, interesting, and motivating. From the autumn term, I moved iContact to the lunch break rather than class time, which made it accessible to all students, not only those free during scheduled classes. This change proved popular, as there have been no empty sessions since the lunchtime format began. I have



met students from a wide range of departments and year levels, although participation from the Computer Science department remains an area to improve. Most sessions have focused on relaxed, general conversation, but several students requested targeted IELTS Speaking support, which I hope helped their test preparation. I look forward to continuing and developing iContact in the next academic year.

Christopher WYLE (Liberal Education Center)



The 2025 iCoToBa sessions were, as always, meaningful and enjoyable. This academic year I was happy to meet new students and learn from them, and hopefully they found meaning in our conversations as well. As in previous years, there are students who join me with some regularity and we can get to know each other better and more deeply than in a class typically with many students. This is meaningful for me and I learn about

Japan and elsewhere from the students I meet each week in I-Contact. I also meet students from a wide variety of majors and of course each student brings his or her own viewpoints, experiences and interests. I am also sad to say goodbye to several students who I joined me in I-Contact who are now graduating. I will miss our conversations and wish them the best in their future life after graduation.

Derrace McCALLUM (Liberal Education Center)

This year's iContact sessions were a meaningful and rewarding part of my work here at Aichi Prefectural University. It was a pleasure meeting and interacting with students in a relaxed, one-to-one environment that allows for open and honest communication beyond the traditional classroom setting.

These sessions provided an important space for students to ask questions, share concerns, and seek guidance about English study, academic goals, and personal opportunities for the future. I particularly appreciate being able to meet students from a wide range of majors and backgrounds, including those I do not teach in regular classes. At the same time, connecting individually with my own students helps strengthen rapport and mutual understanding.

I look forward to continuing this fruitful engagement with our students and supporting their growth in the coming year.



Melo WADISON (Liberal Education Center)



Este foi meu último ano lecionando na Universidade da Província de Aichi e, ao longo desse período, o iContact foi um espaço especialmente significativo. Ano após ano, pude acompanhar o crescimento constante do interesse dos estudantes pela língua portuguesa e pelo Brasil, o que se refletiu claramente no aumento do número de alunos que vieram praticar conversação comigo no iContact. Participaram não apenas estudantes das disciplinas de Estudos

Liberais, mas também um número cada vez maior de alunos do Curso de Graduação em Língua Portuguesa, demonstrando maior iniciativa em usar o português de forma espontânea e comunicativa. Ver esse desenvolvimento progressivo no interesse e na atitude dos estudantes em relação à língua foi uma experiência muito gratificante e marcou de forma positiva meu encerramento na universidade.

今年度は、私にとって愛知県立大学での最後の勤務年となりましたが、その中で iContact は特に印象深い場となりました。この4年間を通じて、ポルトガル語およびブラジルに対する学生の関心が年々高まっていることを実感しており、その流れは iContact を訪れて会話練習を行う学生数の増加にも明確に表れていました。教養教育科目の履修者に加え、ポルトガル語専攻コースの学生が積極的に参加するようになり、ポルトガル語を実際に使ってみようとする姿勢が一層強まっていたと感じます。こうした学生の成長と関心の広がりを見届けることができたことは、大変意義深く、愛知県立大学での最後の一年を締めくくるに大変ありがたい経験となりました。

Student's Voice

オウ カイビ (静宜大学 交換留学生)

iCoToBa は日本の学生と自然に交流できるとても素晴らしい環境です。ただ自分の国の文化を一方的に紹介するだけではなく、お互いの文化や考え方を共有し、学び合うことができます。会話やさまざまな活動を通して、日本の習慣や礼儀、日常生活についても多くのことを知ることができました。

また、異なる文化の違いを理解し、さまざまな視点から物事を考える力も身についたと思います。何よりも、多くの友達ができただけが最大の収穫です。日本語で話す機会が増え、自信もつきました。iCoToBa は単なる言語交流の場ではなく、人と人とのつながりを深め、自分自身も成長できる大切な場所だと感じています。



iCoToBa 是一個很棒的交流環境，讓我可以和日本學生自然地互動與溝通。這裡不只是單方

面分享自己國家的文化，而是彼此交流、互相學習的地方。在聊天和活動中，我不僅介紹了自己的文化，也更深入了解了日本的習俗、禮儀和生活方式，對日本社會有了更多認識。

透過這樣的交流，我學會從不同角度思考事情，也更理解文化差異。最重要的是，我在這裡交到了很多朋友。和他們聊天讓我更有自信使用日語，也讓留學生活變得更充實、更有意義。iCoToBa 不只是語言交流的場所，更是一個讓人成長與建立連結的重要空間。

イ ハンビ (韓國外國語大學 交換留學生)



アイコンタクトで韓国語の授業を行いました。アイコンタクトは、私にとっても韓国に関心のある友だちと出会える良い機会であり、韓国語を学びたい日本人学生にとってもとても良い機会だったと思います。

最初の数週間は基本的な表現や単語を学び、後半はお互いに自由に会話をしながら楽しい時間を過ごしました。特に、韓国語のリール動画を一緒に見ながら表現を学んだ時間がとても面白かったです。ただ韓国語を教えるだけでなく、日本語との違いについても一緒に考えることで、私自身も多くのことを学ぶことができました。毎週私の授業に来てくれた友だちに、心から感謝の気持ちを伝えたいです。もし皆さんもアイコンタクトの授業を行ったり、参加する機会があれば、ぜひ挑戦してみることをおすすめします。

マテウシュ ロナウド アデム (リューネブルグ大学 交換留學生)

アイコンタクトでドイツ語専攻の人もドイツに旅行したい人にもたくさんのドイツ語、ドイツの文化に興味がある人に会えて面白かった。ドイツ語やドイツの文化を教える中で改めて自分の文化について考えて、自分の中にも発見がありました。毎週母語を話せる環境も安心できる環境だった。1 単語があまりにも長い単語にみんながびっくりしていたのが 1 番印象に残っています。毎週ドイツ語に興味がある人と一緒にドイツ語で話せて楽しかった。ドイツ人やドイツに留学した人などドイツに住んでた人と話す時は早くなるが、アイコンタクトで話すドイツ語はいつもよりゆっくりになり、改めて教える側になることは新鮮だった。

Ich habe ein Jahr lang am iContact-Programm teilgenommen und dabei viele japanische Studierende kennengelernt, die sich für die deutsche Sprache interessiert haben. Es waren nicht nur Deutschstudierende dabei, sondern auch welche die an neugierig waren oder eine neue Sprachen lernen wollten. Dadurch waren manche Treffen besonders lebendig — wir haben viel gelacht und voneinander gelernt.

Im ersten Semester war ich der einzige Student aus Deutschland, weshalb die Treffen immer gut besucht waren. Ich hatte oft die Gelegenheit,



über Deutsch im Alltag und über Deutschland zu sprechen, und konnte so ein kleines Stück Heimat vermitteln.

Was besonders Spaß gemacht hat, war es spielerisch den Sprachkontakt zu fördern und die deutsche Sprache und Kultur auf humorvolle Weise näherzubringen — zum Beispiel mit komplizierten Wörtern wie Streichholzschächtelchen oder Eierschalensoßbruchstellenverursacher oder mit zunächst merkwürdig erscheinenden Dingen wie Spaghettieis oder geschlossenen Läden am Sonntag.

Alles in allem habe ich sehr gerne an iContact teilgenommen und kann es jeder Person empfehlen, die Freude an neuen Begegnungen und kulturellem Austausch hat.

鵜飼 安里 (外国語学部 英米学科 4年)



私の英語学習にとって iContact は貴重な時間です。私は日頃の大学の授業に加えて、スキマ時間で有効的に利用させて頂いています。1、2年生の頃は、外国人の先生とのリアルな会話を通して、スピーキング力向上を主な目的として利用していました。5ヶ月の留学後3年生になってからは、語学力向上という目的だけでなく、異文化コミュニケーションを楽しむことを目的に利用しています。中学高校時代は、外国人とマン

ツーマンで話す経験があまりなかったので、利用当初は、時間が過ぎるのが長く感じたり、自然な会話をするのが難しかったり、またテーマを決めて話すことで不安を軽減させたりしようとしていました。しかし、今では特にテーマを決めずに日常会話をリラックスして語り合うことができ、気づけばあっという間に15分過ぎてしまっています。先生方がとても温かく献身的で、必ずしも英語のみを話さなければいけない雰囲気ではないため、英語でのコミュニケーションに不安を感じている方にもおすすめです。また、iContact は、週ごとの予約になるので、自分のスケジュールに合わせて予約を取ることができる点も助かっています。普段の大学の授業とはまた異なった方法で英語に触れることができる良いチャンスだと思います。

長谷部 優菜 (外国語学部 ヨーロッパ学科 スペイン語・ポルトガル語圏専攻 3年)

私は専攻言語としてポルトガル語を学んでおり、そのポルトガル語をより上達させたいと考え、iCoToBa を利用し始めました。学び始めた当初は、これまで一度も触れたことのない言語だったため、何を言っているのか全く分からず、簡単な会話すら成り立ちませんでした。しかし、先生方が私が理解できるまで、何度もゆっくりと丁寧に教えてくださったおかげで、失敗を恐れずに自信を持って学び続けることができました。そのようなご指導のおかげで、ポルトガル語



に関する資格を取得し、弁論大会でも入賞することができました。

この iCoToBa がなければ、ここまで成長することはできなかつたと思いますし、ポルトガル語をここまで楽しく学ぶこともできなかつたと思います。本当にありがとうございました。

2.2.6 海外大学の学生とのオンライン交流

メキシコグアダハラ大学
オンライン日本語会話ボランティア募集！

日本語時間：10:30～11:00
メキシコ人の日本語学習者2～3人と話します。 毎回参加する必要はありません。まず、参加登録してください。

10月					11月									
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
19	20	21	22	23	24	25		1	2	3	4	5	6	7
26	27	28	29	30	31		8	9	10	11	12	13	14	15
							16	17	18	19	20	21	22	23
							24	25	26	27	28	29	30	31

申込先：icotoba@for.aichi-pu.ac.jp
申込者に登録情報を送ります。
定員に達し次第締め切ります。
希望者は早めの登録がお勧めです!!

問合せ：iCoToBa（多言語学習センター）
icotoba@for.aichi-pu.ac.jp

2021 年度から始まったグアダハラ大学(メキシコ)との交流会は、オンライン日本語会話ボランティアとして引き続き実施している。秋学期・冬学期にあわせて 21 名が参加した。

参加者の声

井戸田 英紀（外国語学部 ヨーロッパ学科 スペイン語圏専攻 4 年）

今期のグアダハラ大学の日本語授業ボランティアの活動形態は大きく二つでした。

- ① 2～3 人の現地学生と、日本語能力の高い現地学生一人、そして日本人参加者 1～2 人のチームに自動で振り分けられる 15 分で同様にチームが再編成される 15 分×2 回の計 30 分(もしくは 10 分×3 の計 30 分)
- ② 日本人参加者1人と現地学生1人のペア 15 分でペア交代 15 分×2 回の計 30 分(もしくは 10 分×3 の計 30 分)

ほとんどのセッションでは①が採用されましたが、私の理想的なチーム分けは、②でした。というのも、①だと、現地学生の中で話せる人だけが積極的に参加してしまい、他の学生がついていけず黙ってしまうという場合がよくあったからです。私としては、大人数のグループよりも、ペアで活動した方が、話すときの心理的ハードルも圧倒的に低くなるのではないかなと思います。

また、学生によって話せるレベルにかなりばらつきがあるなと思いました。日本語能力の高い現地学生は別として、それ以外の現地学生には、全くとっていいほど話せない人もいたし、一方で高いレベルの人もいました。それもそのはずで、年代も経験も全く違うからです。興味があったから参加してみたという人から、昔日本で働いていたという社会人の人まで、いろんな人がいたので、彼らが普段どのように日本語授業を受けているのか非常に興味がわきました。

このボランティア活動に参加した理由は、留学が終わって、会話のレベルが落ちてきたことに危機感を覚えたからということと、単純に友達が増えそうだなと思ったからです。アクティビティ中に僕の連絡先を紹介したところ、日本語の練習をしたいと言ってくれた人達が連絡してくれたので、彼らと相互に高め合っていきたいです。

3 留学報告会

iCoToBa での留学報告会は、週に一度、昼休みに定期的に行われている。今年度は毎週月曜日に開催し、協定大学からの帰国者には報告を義務付けた。この報告会では、留学体験者が留学先での学修や異文化体験などの紹介を通して、自身の学びをふりかえること、そして、これから留学を考える学生と、留学準備や現地情報等を共有することを目的としている。

2025 年度は、前・後期あわせて 25 回の報告会が開催された。報告者は学生目線で、留学を考える学生が必要とする内容の資料を準備して発表した。毎回、参加者からは具体的な質問が多くあり、有益な情報提供の場となった。

2025 年度に開催した留学報告会の実施実績を表 8、表 9 に示す。

[表 8 2025 年度前期 留学報告会実施実績]

月日	留学先	国名	参加者数
5 月 12 日	ペルーカトリカ大学	ペルー	5
5 月 19 日	メモリアル大学	カナダ	20
5 月 26 日	プンペウ・ファブラ大学	スペイン	12
6 月 2 日	東海大学	台湾	6
6 月 9 日	サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学	スペイン	10
6 月 16 日	テイラーズ大学	マレーシア	12
6 月 23 日	ロレーヌ大学・リール大学	フランス	9
6 月 30 日	チュービンゲン大学	ドイツ	12
7 月 7 日	リール大学	フランス	8
7 月 14 日	アリカンテ大学	スペイン	9
7 月 28 日	ケルン大学	ドイツ	13
11 回開催 参加者のべ数			116

[表 9 2025 年度後期 留学報告会実施実績]

月日	留学先	国名	参加者数
10 月 6 日	メモリアル大学	カナダ	10
10 月 13 日	セビリヤ大学	スペイン	4
10 月 20 日	リューネブルク大学	ドイツ	15
10 月 27 日	グアダラハラ大学	メキシコ	12
11 月 10 日	ウーロンゴン大学	オーストラリア	4
11 月 17 日	ライプツィヒ大学	ドイツ	13
11 月 24 日	東海大学	台湾	9
12 月 1 日	アントワープ大学	ベルギー	7
12 月 8 日	静宜大学	台湾	3

12月15日	ミーニョ大学	ポルトガル	6
12月22日	トゥールーズ大学ジャンジョレス校	フランス	7
1月5日	アコルーニャ大学	スペイン	14
1月19日	テイラーズ大学	マレーシア	2
1月26日	リール大学	フランス	7
14回開催 参加者のべ数			113



[5月19日 メモリアル大学]



[6月16日 テイラーズ大学]



[11月10日 ウーロンゴン大学]



[12月1日 ゲント大学]

4 グローバルセミナー

iCoToBa グローバルセミナーは、2017年度から始めた取り組みである。本学の教員や外部有識者を招き、国内外のグローバルな文脈における研究や、研究に関連した活動、または、海外生活で得た経験などについて紹介し、議論できる場をつくることを目指したものである。本学のグローバル事業が全学化されたことにもない、学生と教職員が交流できる場としても活用されている。さらに、2025年度は愛知県立芸術大学との「2大学連携事業」としてのセミナーを3回開催した。ほとんどのセミナーを対面とオンラインのハイブリッドで開催したことによって、

より多くの学生や教職員が参加することができた。オンラインセミナーを視聴するための Office365Teams の Global / iCoToBa チームの参加登録者数は 415 人になった。2025 年度に開催したグローバルセミナー一覧を表 10 に示す。(以下、講師の敬称略)

AI による野鳥観察(バードウォッチング)の光と影 ーバードウィーク・「Global Big Day」に考えるー

講師:奥田 隆史(情報科学部 情報科学科)

「名前を知れば、世界の謎が 1 つ解けたことになる。その分だけ人生と世界は単純になっていく。だからこそ、人生は楽しく、生きることはすばらしい。」(ココ・シャネル)

愛知県立大学では、多くの野鳥の鳴き声を聞くことができます。桜の季節にはウグイス、4 月中旬になるとツバメ、青葉が美しくなるとホトギスの鳴き声が聞こえます。判別できないような鳴き声も耳にします。私はその鳴き声を AI で解析するアプリケーションを活用して鳥の種類を判別し、楽しんでます。近年、AI 技術は野鳥観察の分野にも導入されてきましたが、AI が生成する野鳥の画像の中には、野鳥観察に誤解を与える可能性のあるものもいくつか見受けられます。

講演実施日の 5 月 14 日は我が国では愛鳥週間の最中です。同じ頃、世界では「Global Big Day」が設定されており、どこで、どれだけの鳥を見たかを世界中で共有する日です。今回のセミナーでは、AI による野鳥観察の光と影について議論します。



[5 月 14 日グローバルセミナー]

隣にベトナム人が住んでいたら? ~“言葉”と“心”でつながる多文化共生へ~

講師:グエン タン タム(国際文化研究科 コミュニティ通訳学コース)

近年、日本に暮らす外国人住民、なかでもベトナム出身の人々の数が急増しています。とくに愛知県では、みなさんはコンビニや工場、学校、病院など、日常のさまざまな場面でベトナム人の姿を見かけるようになったかと思います。では、もしあなたの“隣人”がベトナム人だったとしたら、交流する際にどんなことに気をつければよいのでしょうか?

このセミナーでは、まず参加者の皆さんが持っている「ベトナム人のイメージ」を伺いながら、実際のベトナム人の生活文化や価値観との違いを紹介していきます。そして、ベトナムと日本の文化的な共通点と相違点を具体的に取り上げ、地域でともに暮らすうえでのコミュニケーションのヒントについて、皆さんと意見を交わしながら考えていきます。

さらに、ことばと文化の壁を越えて人と人をつなぐ「コミュニティ通訳」の役割について、ロールプレイ形式で実際に体験していただきます。文化の違いを“学び”や“力”に変えるにはどうしたらよいか、一緒に考えてみませんか？



[5月21日グローバルセミナー]

K-POP とは何か～K-POP の歴史と定義～

講師:長沼 圭一(外国語学部 ヨーロッパ学科 フランス語圏専攻)

金成玫著『K-POP 新感覚のメディア』および山本浄邦著『K-POP 現代史—韓国大衆音楽の誕生から BTS まで』を参考に K-POP の歴史を追った。K-POP 以前に日本で活躍した韓国歌手と言えば、金蓮子、趙容弼、桂銀淑など、ほとんどは演歌歌手であった。韓国では 1980 年代後半からソバンチャのようなアイドルグループやソテジワアイドルのようなダンスミュージックが注目を集めるようになり、その後 H.O.T.や S.E.S など「第 1 世代アイドル」と呼ばれるダンスグループの登場へとつながっていく。1998 年に日韓共同宣言が発表されて以降、韓国のポピュラー音楽が一気に日本に入ってくるようになり K-POP と名付けられた。東方神起、少女時代、KARA といった「第 2 世代アイドル」によって日本における K-POP の人気は決定づけられた。TWICE をはじめとする「第 3 世代アイドル」以降、メンバーの多国籍化や活動のグローバル化が進んでいった。その結果、NiziU のように韓国発でありながらメンバーがほぼ全員日本人というグループも登場し、今や K-POP は国籍とは関係なく一つの音楽ジャンルに成長したと言えるかもしれない。



[5月28日グローバルセミナー]

多様化するニーズに応える日本語教育:UPI の取り組みを中心に

講師:デウィ・クスリニ(インドネシア教育大学 言語文学教育学部)

インドネシアは世界で二番目に多くの日本語学習者を抱え、日本語教育の需要が拡大し続けている。特に LPTK(教育職員養成機関)は、高等学校の日本語教師の育成を目的として設立されたが、現在ではその役割が拡張され、より実践的かつ多様な学習ニーズに対応する教育が求められている。たとえば、特定技能制度や技能実習制度に基づく職業訓練機関で教える教師、あるいはインドネシア語と日本語の通訳者を目指す学習者など、教育対象の範囲も広がっている。本発表では、LPTK の一つであるインドネシア教育大学(UPI)を取り上げ、同大学における日本語教育の現状について報告する。具体的には、教育課程、教授法、学習支援、実践的活動、留学・就職支援の取り組みを紹介し、今後の展望についても考察する。



[6月11日グローバルセミナー]

翻訳者か通訳者：違いと求められるスキル

講師:小川 カミュー(フランス語会議通訳者・翻訳家)

本セミナーでは、「翻訳」と「通訳」という二つの言語専門職の違いや共通点に注目し、それぞれに求められるスキルや適性、また日本や欧州における養成課程について紹介します。特に会議通訳という職業に焦点を当て、国際会議、企業交渉、文化・スポーツイベント、記者会見など多岐にわたる現場での役割や、日本における市場の特徴、クライアントの種類、仕事の受注方法について具体的に解説します。さらに、通訳という仕事の魅力とともに、事前準備の重要性、時間・ストレス・顧客対応のマネジメント、そして AI など新しい技術の進展による影響についても議論します。翻訳・通訳の分野に興味がある学生や言語に関わる職業を目指す方々にとって、実践的かつ示唆に富む内容となります。



[6月18日グローバルセミナー]

「公益通訳と社会資源」成果報告—動画に字幕をつけました！—

発表者:池田寿美子・山田摂子・真弓さやか(国際文化研究科 コミュニティ通訳学コース)

担当教員:吉田 理加(外国語学部 ヨーロッパ学科 スペイン・ポルトガル語圏専攻

/大学院国際文化研究科)

ニュー・サウスウェールズ保健省が制作した医療通訳の活用に関する啓発動画シリーズ(5本)のうちの3本に、同保健省の許可を得て大学院国際文化研究科コミュニティ通訳学コースの院生が、授業「公益通訳と社会資源」(担当教員 吉田理加)の課題として日本語字幕翻訳を作成しました。医療通訳が介在することの利点、ならびに介在しないことのリスクが実例のストーリーで紹介されています。この動画を医療通訳に関する理解を深めるきっかけとしていただければ幸いです。

「家族や友人を通訳として使うことのリスク」 字幕翻訳 池田寿美子

「通訳の必要性を判断する」 字幕翻訳 山田摂子

「家族会議を通訳する」 字幕翻訳 真弓さやか



[7月9日グローバルセミナー]

[2 大学連携事業]

パーカッションが“楽器”ではなくなる？～「共鳴～Kyo-me」プロジェクト～

講師:深町 浩司(愛知県立芸術大学 音楽学部管打楽器コース/パーカッショニスト)

「共鳴～Kyo-me」は愛知芸大で立ち上げられたプロジェクトで、パーカッションが“モノ(楽器)”としてだけではなく“コト”—私たちのQOLを高めるための身近な行為—として社会に広く共有されることを目指しています。本セミナーではプロジェクトの活動を紹介したのち、参加者全員で“パーカッション”を試みていきます！



[7月16日グローバルセミナー]

ポルトガルの教育現場における授業実践と学び —Erasmus+教職員派遣プログラムの経験を通して—

講師:メロ ワジソン(教養教育センター)

Erasmus+教職員派遣プログラムの一環として、ポルトガル北部に位置するミーニョ大学を短期間訪問し、現地においてポルトガル語教育に関する授業を実施する機会を得ました。本セミナーでは、その派遣経験を基に、授業準備や実施の過程における実践的側面、および異なる教育環境において得られた気づきや課題意識について報告しました。派遣期間は限られていたものの、異文化的な教育文脈に身を置いて教授活動を行うことは、自己の教育実践を相対化し、再考する契機となりました。こうした経験は、国際的な教育交流の一形態として、教育活動における多様な視点の涵養や、今後の学術的連携の可能性を考察する上での一助となり得るものです。海外での教育実践に関心を持つ教職員や学生にとって、本事例がささやかながらも一つの参考となれば幸いです。



[7月23日グローバルセミナー]

[2 大学連携事業]

想像すること創造することについて “ガッチャマン”ヘルメットから考える What a "Gatchaman" Helmet Taught Us about Imagination and Creation

講師:奥田 隆史(情報科学部 情報科学科)／小林 大地(愛知県立芸術大学 金工室)

現代社会において、多様な課題を解決する創造力の重要性が高まっています。これに応えるべく、大学教育もまた、創造性を育む役割を担うことが求められています。本企画では、この問いに正面から向き合うため、2つの大学が連携し、対談を開催します。対談者は、教養教育センター長の奥田氏と、具体的な形としてアイデアを生み出す創造力を持つ愛知県立芸術大学・金工室の小林大地氏。両氏の間には、SF アニメ「ガッチャマン」のヘルメットを配し、既成概念を超える議論のシンボルとします。この対談が、未来を拓く教育の新たな道筋や糸口を見出す機会となることを期待します。

Action always beats reaction !



[10月15日グローバルセミナー]

アフリカ理解のための〈舟を編む〉:『広辞苑』改訂作業こぼれ話

講師: 亀井 伸孝(外国語学部 国際関係学科)

岩波書店の国語辞典『広辞苑』の次期改訂(第8版の準備)に向けて、アフリカ関連の項目を充実させたいとの編集部からの依頼を受け、校閲と執筆の作業に参加した。既存項目のうち、アフリカ史 16 項目、アフリカ地名 231 項目の校閲を行い、必要な加筆を行った。また、辞典に掲載することが望ましい新規項目として、47 の語句(アフリカ史 30 項目、アフリカ地名 17 項目)を提案、すべての項目の執筆を行った。アフリカの専門家が過去に執筆した説明においても、内容が古くなっているもののほか、記述が曖昧なもの、誤解を招きうるものなどが含まれており、最新の状況に基づいた加筆を行った。さらに、新規項目の追加では、ノーベル平和賞受賞者の掲載が少ない、女性の著名人が未掲載であるなどの課題があり、適切な追加作業を行った。辞典の執筆・修正とは、先人の実績に自分が上書きすることであるとともに、いずれは次の世代の研究者によって上書きされていくことでもあり、学术界の縮図であるとも言える。作業を通じて、日本に根強く存在するアフリカへの偏見や無関心を乗り越え、正確な知識を全世代に向けて発信する役割の重要性を再確認することができた。



[11月5日グローバルセミナー]

Comunicación entre docentes y padres extranjeros en contextos educativos en Murcia, España.

ムルシア(スペイン)における教育現場の外国出身の親と教員間のコミュニケーション

講師:アナ・イサベル・フォルキエ・ルビオ(ムルシア大学 翻訳通訳学部)

Ana Foulquié Rubio 氏(ムルシア大学翻訳通訳学部講師)研究の関心は教育、警察、医療などの分野におけるコミュニティ通訳で、感情が通訳者にどのような影響があるかにも関心を持っている。スペインの宣誓通訳・翻訳者でもあり、教育、研究、実践に従事している。

スペインの教育現場で、外国出身の親と教員がどのようなコミュニケーション手段に頼っているのかを公立小学校を対象に調査した結果について紹介する。



[11月12日グローバルセミナー]

文学と私—読んで、書いて、帰る

講師:イタマール・ヴィエイラ・ジュニオール(ブラジル人作家)

イタマール・ヴィエイラ・ジュニオール氏は現代ブラジル文学を代表する作家の一人です。初の長編小説 *Torto Arado* (『曲がった鋤』(武田千香・江口佳子訳、水声社2025年))は100万部を超えるベストセラーとなり、20カ国以上の言語に訳され、国内外で数々の文学賞を受賞しました。英訳 *Crooked Plow* (Johnny Lorenz 訳)は2024年英国「国際ブッカー賞」最終候補にも選ばれました。イタマール氏の作品では、歴史的に貧しい境遇に置かれてきた人々が、大きな困難に直面しながらも互いに支え合い、力強く生きる姿が、等身大の女性たちの視点を通して描かれています。その人間描写は、多くの読者の共感を呼んでいます。自身も貧しい家庭の出身であるイタマール氏は、文学がもつ大きな力と可能性を繰り返し強調しています。本講演では、文学との出会い、読むこと、そして書くプロセスについてお話しいたします。



[11月19日グローバルセミナー]

[2 大学連携事業]

「ウォールアートフェスティバル」

インドと日本のカルチャーコミュニケーションプロジェクト

講師: 夏目 知道 (愛知県立芸術大学 美術学部デザイン・工芸科デザイン専攻)

NPO 法人ウォールアートプロジェクトと共にインド西部マハーラーシュトラ州ワルリ族の村の小学校を舞台にアートフェスティバルを継続的に行ってきました。アートフェスティバルの目的はアーティストと共に子供たちも参加して教室を壁画空間へ創造する体験提供、そして小学校の就学率を上げることです。プロジェクトが複数年継続していく中で暮らしのあり方におけるインドと日本の価値観について興味深い会話が始まりました。noco noco (ノコノコ: もう充分) 暮らしに余計なものはいらないもうそれで充分だという彼らの言葉に魅了された私たちは「noco project」を立ちあげ彼らの暮らしを体感するためにワルリ族の家をセルフビルドしました。土を盛り、柱を立て、瓦屋根をのせて、牛糞の壁を塗り、雨水タンク、コンポストトイレ、アースオーブンなどを設置しました。自然と共生する循環生活を目指す試みです。



[12月3日グローバルセミナー]

韓国の高齢者の貧困

講師:金 碩浩(教育福祉学部 社会福祉学科)

かつて最貧国の一つであった韓国は、2024年現在、一人当たりGDPでアジア4位となる目覚ましい経済成長を遂げた。しかし、その光の裏側で、過剰競争や格差といった深刻な社会問題も生じている。本グローバルセミナーでは、OECD加盟国で最悪水準にある高齢者の貧困問題に焦点を当て、韓国社会の光と影を考察する。

OECDによると、韓国における66歳以上の高齢者の貧困率は38.2%(2022年)と、日本の約2倍に達し、OECD加盟国の中で突出して高い水準にある。

この韓国の高齢者層は、朝鮮戦争後の絶対的貧困を経験し、「漢江の奇跡」と称される圧縮された近代化を牽引した主役に他ならない。しかし、彼らは困窮する親世代を扶養する伝統的責務を負うと同時に、激化する学歴社会において、子供への教育投資に対し際限のない資源の投入を余儀なくされた。この二重の構造的負担の結果、経済成長の恩恵を享受しつつも、自身の老後への備えを十分に講じることができなかつたのである。

さらに、公的年金制度の成熟が遅れたことも構造的要因である。国民年金制度は1988年に導入されたが、従業員10人以上の事業所のみを対象とし、全国民への適用(国民皆年金)が達成されたのは1999年であった。



[12月17日グローバルセミナー]

カンボジアにおける教育支援:

『貧困撲滅』を目指す国際ボランティア団体 SPLEA について

講師:久我 アレキサンデル(教育福祉学部 教育発達学科)

発表者:市川 奈穂(教育福祉学部 教育発達学科 4年)

カンボジアではポルポト政権による社会基盤の崩壊後、経済や社会が不安定な状況が続いてきました。特に近年は隣国との紛争、詐欺・人身売買などに関わる犯罪組織に関する報道が多くみられ、子どもたちの命や生活は貧困、児童労働、都市と農村の経済格差など様々な問題によって脅かされています。

セミナーでは、こうした情勢の中、教育支援を中心にカンボジアでボランティアを続けてきた団体“SPLEA”の活動を紹介します。



[1月14日グローバルセミナー]

日本の言語多様性～日本語・ポルトガル語バイリンガル話者の調査から

講師:ティム・ラメリス(ライデン大学 人文科学部)

ご自分で「Laptop」、「TikTok」などの外来語を日本語っぽく発音してみると、きっと「ウ」という母音が出てくるのではないか。その母音を、言語学では「挿入母音」という。挿入母音はなぜ出てくるかという、外来語における/pt/、/kt/などのような子音が並ぶ音は、日本語独自の発音ルールによって規制されるからである。実は、日本語と系統関係のないブラジル・ポルトガル語にも同じようなルールが存在し、外来語を発音するときに「イ」という挿入母音が見られる。日本語話者とポルトガル語話者はこのように、子音がたくさん並ぶ外来語に「ウ」または「イ」を入れることで、無意識に不正な発音を“修正”するのだ。なお、2つの言語の修正戦略を持っているバイリンガル話者が、外来語を発音するときにどちらの言語の戦略をとるのだろうか。本研究では、日本語とブラジル・ポルトガル語のバイリンガル話者の挿入母音の使用に関するデータを紹介し、言語優勢性・習得年齢などの要因を考慮しながら、バイリンガル話者が柔軟に二つの言葉のシステムを操れることを主張したい。



[1月21日グローバルセミナー]

[表 10 2025 年度開催グローバルセミナー一覧]

月日	講師	タイトル	参加者数
5/14	奥田 隆史 (情報科学部 情報科学科)	AIによる野鳥観察(バードウォッチング)の光と影ーバードウィーク・「Global Big Day」に考えるー	52 (32)
5/21	グエン タン タム (国際文化研究科 コミュニティ通訳学コース)	隣にベトナム人が住んでいたら? ～“言葉”と“心”でつながる多文化共生へ～	34 (21)
5/28	長沼 圭一 (外国語学部 ヨーロッパ学科 フランス語圏専攻)	K-POP とは何か ～K-POP の歴史と定義～	53 (34)
6/11	デウィ クスリニ (インドネシア教育大学 言語文学教育学部)	多様化するニーズに応える日本語教育:UPI の取り組みを中心に	27 (10)
6/18	小川 カミーユ (フランス語会議通訳者・翻訳家)	翻訳者か通訳者 : 違いと求められるスキル	68 (26)
7/9	池田寿美子・山田摂子・真弓さやか (大学院 国際文化研究科 コミュニティ通訳学コース) 担当者:吉田 里加 (外国語学部 ヨーロッパ学科 スペイン語・ポルトガル語圏専攻)	「公益通訳と社会資源」成果報告 ー動画に字幕をつけました!ー	22 (14)
7/16	深町 浩司 (愛知県立芸術大学 音楽学部 器楽専攻管打楽器コース /パーカッショニスト)	[2 大学連携事業] パーカッションが“楽器”ではなくなる? ～「共鳴～Kyo-mei」プロジェクト～	44 (26)
7/23	メロ ワジソン (教養教育センター)	ポルトガルの教育現場における授業実践と学び ーErasmus+教職員派遣プログラムの経験を通してー	24 (17)
10/15	奥田 隆史 (情報科学部 情報科学科) 小林 大地 (愛知県立芸術大学 金工室)	[2 大学連携事業] 談話室編 #1 想像すること創造することについて “ガッチャマン”ヘルメットから考える What a "Gatchaman" Helmet Taught Us about Imagination and Creation	41 (28)
11/5	亀井 伸孝 (外国語学部 国際関係学科)	アフリカ理解のための〈舟を編む〉: 『広辞苑』改訂作業こぼれ話	44 (27)

月日	講師	タイトル	参加者数
11/12	アナ・イサベル・フォルキエ・ルビオ (ムルシア大学 翻訳通訳学部)	Comunicación entre docentes y padres extranjeros en contextos educativos en Murcia, España ムルシア(スペイン)における教育現場の外国出身の親と教員間のコミュニケーション	17
11/19	イタマール・ヴィエイラ・ジュニオール (ブラジル人作家)	文学と私—読んで、書いて、帰る	37 (11)
12/3	夏目 知道 (愛知県立芸術大学 美術学部 デザイン・工芸科デザイン専攻)	[2 大学連携事業] 「ウォールアートフェスティバル」 インドと日本のカルチャーコミュニケーションプロジェクト	31 (22)
12/17	金 碩浩 (教育福祉学部 社会福祉学科)	韓国の高齢者の貧困	30 (15)
1/14	久我 アレキサンデル (教育福祉学部 教育発達学科) 発表者:市川 奈穂 (教育福祉学部教育発達学科 4年)	カンボジアにおける教育支援: 『貧困撲滅』を目指す国際ボランティア 団体 SPLEA について	27 (11)
1/21	ティム・ラメリス (ライデン大学 人文科学部)	日本の言語多様性～日本語・ポルトガル語バイリンガル話者の調査から	29 (11)

()内はオンライン参加者数

5 iCoToBa のイベント

iCoToBa では、異文化理解および異文化交流の促進を目的に、さまざまなイベントを開催している。2025 年度に実施したイベント一覧を以下表 11 に記す。

[表 11 2025 年度 iCoToBa 開催イベント一覧]

実施日	時間	イベント名	参加者数
4月 9日	12:50-14:20	iCoToBa Pre-Session1	11
4月 9日	13:00-16:30	Welcome Party	92
4月 9-15日		Welcome Week	26
4月 10日	14:30-16:00	iCoToBa Pre-Session2	8
6月 18日	13:30-16:45	球技大会	11
6月 26日	12:10-13:30	Festa Junina	66

実施日	時間	イベント名	参加者数
7月16日	14:00-16:00	Farewell Party	31
10月15日	14:00-16:00	Welcome Party	43
11月1日	10:30-12:00	第15回レシテーション大会	35
12月17日	14:00-16:00	Christmas Party	24
1月14日	14:00-16:00	Farewell Party	8



[2025年4月9日 Welcome Party]



[2025年6月18日 球技大会]



[2025年7月 セタデコレーション]



[2025年11月1日 第15回レシテーション大会]



[2025年12月17日 Christmas Party]



[2026年1月14日 Farewell Party]

2025年度第7回グローバルセミナー @iCoToBa
要綱大×専大 [2大学連携事業]

パーカッションが "楽器"ではなくなる?

～「共鳴～kyo-mei」プロジェクト～

「共鳴～kyo-mei」は豊知専大で立ち上げられたプロジェクトで、パーカッションが「モノ（楽器）」としてだけでなく、「コト」私たちのQOLを高めるための身近な行為として社会に広く共鳴されることを目指しています。本セミナーではプロジェクトの活動を紹介しますので、参加者全員で「パーカッション」を風みていきます！



スピーカー
深町 浩司 氏
豊知専大立花南大学 音楽学部
管打楽器コース 教授 (パーカッションユニット)

7/16 (水)
12:10-12:45
@ E棟2階 Crocus

セミナーの開催方法
豊知専大Office365Teamsで「Zoom」にて参加する。Zoomのリンクを告知させていただきます。同日までに、セミナーを開催するにあたりZoomのリンクを告知させていただきます。

2025年度 第5回 グローバルセミナー @iCoToBa

翻訳者か通訳者 違いと求められるスキル



翻訳と通訳、それぞれの特徴や必要なスキル、学び方について紹介します。会議通訳者の具体的な仕事内容や日本での市場、求められる能力、仕事の魅力と課題、さらにAIなど新技術との関わりについても解説します。翻訳・通訳に関心のある方におすすめの内容です。

スピーカー:
小川 カミユコ 氏
フランス語会議通訳者・翻訳家

6.18 [Wed.]
12:45-13:30
E棟 2F Crocus

セミナーの開催方法
豊知専大Office365Teamsで「Zoom」にて参加する。Zoomのリンクを告知させていただきます。同日までに、セミナーを開催するにあたりZoomのリンクを告知させていただきます。

2025年度第8回グローバルセミナー @iCoToBa

7/23 (水)
12:10~12:50
場所 Crocus

ポルトガルの教育現場における 授業実践と学び

—Erasmus+教職員派遣プログラムの経験を通して—

Erasmus+教職員派遣プログラムの一環として訪問したポルトガルのミニョ大学での経験をもとに、教員としての活動を振り返りながら、海外の教育現場における授業実践や異文化との出会いについてご紹介します。あわせて、海外で教えるという経験が、自身の教育観や実践にどのような視点や学びをもたらしたのかについてもお話しします。

スピーカー
メロ・ワジソン (教養教育センター)



セミナーの開催方法
豊知専大Office365Teamsで「Zoom」にて参加する。Zoomのリンクを告知させていただきます。同日までに、セミナーを開催するにあたりZoomのリンクを告知させていただきます。

2025年度 第6回 グローバルセミナー @iCoToBa

「公益通訳と社会資源」成果報告 —動画に字幕をつけました!—



ニュー・サウスウェールズ保健者が制作した医療通訳の活用に関する啓発動画シリーズ (5本) のうちの3本に、同保健者の許可を得て大学院国際文化研究科コミュニケーション通訳学コースの院生が、授業「公益通訳と社会資源」(担当教員: 吉田理加) の課題として日本語字幕翻訳を作成しました。医療通訳が介在することの利点、ならびに介在しないことのリスクが実際のストーリーラインで紹介されています。この動画を医療通訳に関する理解を深めるきっかけとしていただければ幸いです。

スピーカー
大学院国際文化研究科 博士前期課程 コミュニティ通訳学コース
真弓 さやか 氏・池田 寿美子 氏・山田 摂子 氏
担当教員: 吉田 理加 氏
(外国語学部ヨーロッパ学専攻スペイン・ポルトガル語圏専攻 / 大学院国際文化研究科)

7/9 (水)
12:10-12:50
@ E棟2階 Crocus
クロッカス

セミナーの開催方法
豊知専大Office365Teamsで「Zoom」にて参加する。Zoomのリンクを告知させていただきます。同日までに、セミナーを開催するにあたりZoomのリンクを告知させていただきます。

2025年度 第11回 グローバルセミナー
**ムルシア(スペイン)における教育現場の
 外国出身の親と教員間のコミュニケーション**
 Comunicación entre docentes y padres extranjeros en contextos
 educativos en Murcia, España

Ana Foulquié Rubio氏 (ムルシア大学翻訳通訳学部講師)
 研究の中心は教育、医療などの分野におけるコミュニケーション理解で、
 感情が通訳者にどのような影響があるかにも関心を持っている。スペイン
 の重要通訳・翻訳者でもあり、教育、研究、実践に従事している。
 スペイン語・ポルトガル語翻訳通訳の専門スペイン語 (コミュニケーション) 専攻学生が
 通訳・日本語の同時通訳を担当します。

11/12 (水)
 12:10-12:50
 @CroCuS (クロッカス)

スピーカー
 ムルシア大学翻訳通訳学部講師
 聖知県立大学国際文化研究科客員共同研究員
Ana Foulquié Rubio 氏

【学生による同時通訳付き】
 対面のみで開催します。

※このグローバルセミナーは、毎月第1回と第3回のみで開催するグローバルセミナーです。
 グローバルセミナーは、毎月第1回と第3回について、専攻の専門授業と組み合わせて開催します。

2025年度 第9回 グローバルセミナー
【2大学連携事業】談話室編 #1

**想像すること創造することについて
 “ガッチャマン”ヘルメットから考える**
 What a “Gatchaman” Helmet Taught Us
 about Imagination and Creation

現代社会において、多様な課題を解決する創造力の重要性が高まっています。
 これに応えるべく、大学教育もまた、創造性を育む役割を担うことが求められ
 ています。本企画では、この問いに正面から向き合うため、2つの大学が連携
 し、対談を開催します。対談者は、教養教育センター長の奥田隆史氏と、異文化
 形とアイディアを組み合わせる創造力を持つ聖知県立芸術大学・金工室の小林
 大地氏。両氏の間に、SFアニメ「ガッチャマン」のヘルメットを脱ぎ、
 既成概念を疑える創造のシンボルとします。この対談が、未来を拓く
 教育の新たな道筋の糸口を見出す機会となることを期待します。

Action always beats reaction!

10/15 (水)
 12:10-13:00
 @CroCuS

スピーカー
 聖知県立大学 情報科学部
奥田 隆史 氏
 聖知県立芸術大学 金工室
小林 大地 氏

※セミナーの開催場所は、
 聖知CROSSING303 Teamで「コートワーク」に隣接する「コートワーク
 (1F)303」または「10000」(10000)に隣接する「コートワーク」です。
 開場時に、セミナーを主催するCROSSING303のスタッフをお待ちください。
 参加費は無料です。参加費は無料です。参加費は無料です。参加費は無料です。

2025年度 第12回 グローバルセミナー
文学と私—読んで、書いて、帰る

Itamar Vieira Junior氏 (ブラジル作家)
 Itamar Vieira Junior氏 (ブラジル作家)
 Itamar Vieira Junior氏 (ブラジル作家)

TORTO ARADO
 YNCELDOR DOS PRINCEPS OCLANDOS E JARDIM

Itamar Vieira Junior氏は現代ブラジル文学を代表する作
 家の一人数です。初の長編小説 Torto Arado (『曲がった亀』) 武田千雪、江口佳
 子訳、水声社2025年)は100万部を超えるベストセラーとなり、20カ国以上の
 言語に訳され、国内外で数々の文学賞を受賞しました。英訳 Crooked Flow
 (Johnny Lorenz訳)は2024年英国「国際ブックアワード」最終候補にも選ばれまし
 た。Itamar Vieira Junior氏の作品では、歴史的に貧しい境遇に置かれてきた人々が、
 大きな困難に直面しながらも互いに支え合い、力強く生きる姿が、等身大の
 女性たちの視点を通して描かれています。その人間描写は、多くの読者の共
 感を呼んでいます。自身も美しい家庭の出身であるItamar Vieira Junior氏は、文学が
 もつ大きな力と可能性を繰り返し感じています。本講演では、文学との出
 会い、読むこと、そして書くプロセスについてお話しいただきます。

11/19(水) 12:10-13:00
 @E棟2階 CroCuS

スピーカー
 ブラジル人作家
イタマル・ヴィエイラ・ジュニオール氏

遠次通訳: エエナガ エウニセ (教養教育センター)
 メロ ワジソン (教養教育センター)

※このグローバルセミナーは、毎月第1回と第3回のみで開催するグローバルセミナーです。
 グローバルセミナーは、毎月第1回と第3回について、専攻の専門授業と組み合わせて開催します。

2025年度 第10回 グローバルセミナー
**アフリカ理解のための〈舟を編む〉
 『広辞苑』改訂作業こぼれ話**

私はアフリカ研究者として、日本社会でもっとアフリカに対する理解を広げ
 たいと切望してきました。このたび、岩波書店の国語辞典『広辞苑』の次期
 改訂に向けて、アフリカ関連の項目を充実させたいとの編集部からのご依頼
 をいただき、秋田と執筆の作業に参加しました。辞典の利用者からは見えに
 くい編集部の舞台裏を、改訂作業に協力したアフリカ研究者の立場からお話
 します。

11/5 (水)
 12:10-12:50
 @CroCuS (クロッカス)

スピーカー
 外国語学部 国際関係学科
亀井 伸孝 氏

オンラインでも視聴いただけます!
 聖知CROSSING303 Teamで「コートワーク」に隣接する「コートワーク
 (1F)303」または「10000」(10000)に隣接する「コートワーク」です。
 開場時に、セミナーを主催するCROSSING303のスタッフをお待ちください。

2025年度 第15回グローバルセミナー
[2大学連携事業]

カンボジアにおける教育支援： 『貧困撲滅』を目指す国際ボランティア団体SPLEAについて

カンボジアではポルトガル語による社会福祉の崩壊後、経済や社会が不安定な状況が続いてきました。特に近年は隣国との紛争、詐欺、人身売買などに限られる犯罪組織に関する報道が多くみられ、子どもたちの命や生活は貧困、児童労働、都市と農村の経済格差など様々な問題によって脅かされています。セミナーでは、こうした情勢の中で、教育支援を中心にカンボジアでボランティアを続けてきた団体「SPLEA」の活動を紹介します。

【オンライン配信方法】 前 Apollo@MS Teamsで「コード」を入力し、Global / CoToBa のチャットに参加してください。当日までに、セミナーを視聴するためのZoomリンクをお知らせします。

1月14日(水)
12:00 - 12:45
E棟2階 CroCuS

【オンラインでも視聴いただけます！】

スピーカー
久我アレキサンデル氏
教育福祉学部 教育発達学科
市川奈穂氏
教育福祉学部 教育発達学科4年生

2025年度 第13回 グローバルセミナー
[2大学連携事業]

ウォールアートフェスティバル インドと日本のカルチャーコミュニケーションプロジェクト

12/3(水)
12:45-13:30
@E棟2階 CroCuS

スピーカー
夏目 知道氏
愛知県立芸術大学 美術学部

オンラインでも視聴いただけます！

NPO法人ウォールアートプロジェクトは、インド西部のマハラシュトラ州の山村の小学校を舞台にウォールアートフェスティバルを継続的に行ってきました。プロジェクトが継続していく中で暮らしの形が、都市と日本の価値観について興味深い会話が始まりました。そして私たちは密着の暮らしを体験する機会に、村の家族をモデルにしました。自然と共に生きる循環型生活を目指す試みです。

2025年度 第16回 グローバルセミナー

日本の言語多様性 ～日本語・ポルトガル語バイリンガル話者の調査から

日本に住む日本語・ポルトガル語のバイリンガル話者は、どうやって日本語とポルトガル語を両立させ、2か国語を話す中、それらの言語はお互いにどのような影響を与えているのだろうか。このような疑問を明らかにするために、オランダのライデン大学の研究者ティム・ラメリスが、言語学的な実験から得られた結果を紹介し、バイリンガル話者が日本の言語的多様性をより豊かにしていることに焦点を当てて。

1/21(水) 12:10～
@E棟2階 CroCuS

スピーカー
Tim Laméris
ティム・ラメリス氏
ライデン大学人文科学部

【オンラインでも視聴いただけます！】
最大のOffice365 Teamsで「コード」を入力し、「Global / CoToBa」のチャットに参加してください。当日までに、セミナーを視聴するためのZoomリンクをお知らせします。

2025年度 第14回 グローバルセミナー

韓国の高齢者の貧困

かつて韓国国一つであった韓国は、2024年現在、一人当たりGDPでシンガポールの2倍、香港に次ぐとされる目覚ましい経済成長を遂げた。しかし、その後の急激な高齢化と格差社会の深刻な社会問題を生んでいる。本グローバルセミナーでは、OECD加盟国で高齢者の水準もある高齢者の貧困問題を、韓国社会における光と影について考察する。

スピーカー
金碩浩氏
教育福祉学部-社会福祉学科

2025 12.17(水) 12:15-13:00
@E棟2階 CroCuS

【オンラインでも視聴いただけます！】
グローバル連携事業

【オンラインでも視聴いただけます！】
最大のOffice365 Teamsで「コード」を入力し、「Global / CoToBa」のチャットに参加してください。当日までに、セミナーを視聴するためのZoomリンクをお知らせします。

5年の様子



タイムテーブル

受付	14:00~14:30
オープニング	14:30~14:40
アイスブレイク	14:40~15:00
アクティビティ	15:00~15:35
エンディング	15:35~15:50
フリータイム	15:50~16:30

参加申し込みはこちらから

QRコード

Instagram: iCoToBa1
Twitter: iCoToBa1

申込期間: 4月8日(水) 12:00まで
申込先: iCoToBa@gmail.com
もしくは: ISCI, Instagram

WELCOME PARTY 2025

前期

県大生×留学生
ゆるっと交流会

4/9 水

参加申し込みはこちらから↑

QRコード

14:30~16:30 (受付 14:00~)

会場: クロファクス (iCoToBaの長所側)

参加費: 無料

定員: 各席 70名

<主催> iCoToBa, ISC (iCoToBa Supporters Club)

サン・ジョルディの日を祝いましょう!



2025 4.23 CroCuS iCoToBa

プログラム

- 10:30-10:40 CroCuS サン・ジョルディの日開始の挨拶
カスターリャー・モニカ、カタルーニャ州日代表部代表
- 10:40-12:00 CroCuS サン・ジョルディの日クイズ
12:10-12:50 iCoToBa Activity Space 懇親会
(事前申し込みが必要です)
- 13:00-14:30 CroCuS 映画 Case en Fiemmes

CroCuSでは一日中、サン・ジョルディ伝説の展示をしています。
BLIND BOOKS
自分で好きな本を選んで家に持ち帰ることができますよ!

主催: 愛知県立大学

懇親会共催: Secretariat de Catalunya, Any Catalunya-Japan

ISC企画 2025 球技大会

6.18 水

受付時間 13:00-14:00
開催時間 14:00-16:45

会場	体育館(アリーナ2)
参加費	無料
定員	25名前後

申し込みはこちらから

申し込み締め切りは 6.12(水)

QRコード

大ぶりなアクセサリー、ピアスなどは事前に外して参加してください
PLEASE TAKE OFF LARGE ACCESSORIES AND EARRINGS IN ADVANCE

動きやすい服装で来てください
PLEASE COME IN CLOTHES THAT ARE EASY TO MOVE

<主催> ISC (iCoToBa Supporters Club)

FESTA JUNINA

「フェスタ・ジュニーナ」はこの時期に行われるブラジルの伝統的なお祭りです。このイベントで、楽しみながらブラジル文化に触れてみませんか。

- ★ポルトガル語履修学生によるフェスタ・ジュニーナに関する発表
- ★ブラジル人留学生によるquadriilha (ダンス) の紹介と体験
留学生に教えてもらって、皆と一緒に踊りましょう!
- ★ポルトガル人留学生によるフェスタ・ジュニーナの紹介/発表
- ★参加者どうしの交流
- ★ブラジルのお菓子も準備しています!
- ★ポルトガル語経験不要! 誰でも気軽に参加できます!

6月26日(木) 12:10~13:30

場所: CroCuS⇔iCoToBa AS
最初はCroCuSに集合

無料券 (無料)

出入り自由!

伝統の服装、チェックのシャツとジーンズ、できる方はぜひ着て来て下さい!

後援: 愛知県立大学 Aichi Prefectural University

BRASIL 130 ANOS DE AMIZADE BRASIL JAPAN DE 1908-2018

2025 SUMMER

FAREWELL PARTY

7月16日
14:00~16:00

場所: Crocus(E棟2F)
参加費: 無料
定員: 30名

・スイカ割り
・かき氷作り を行います!

←申込はこちらから!

申込締め切り: 7月9日

▲スイカの果汁でシミがつく可能性がありますので、心配な方は汚れても良い服装でください!

質問、お問い合わせはISC Instagramまたは、下記メールアドレスまで!
icotobasc@gmail.com



ISC企画

WELCOME PARTY 2025 AUTUMN

10/15(水)
14:00~16:00

場所: クロッカス iCoToBa
受付: 13:30~14:00
定員: 県大生24名、留学生定員なし
内容: クイズ大会
・ゴーストハント

県大にやってきた留学生と交流しよう!
←参加申し込みはこちら(10/8まで)

質問・お問い合わせはisc Instagramまたは
下記メールアドレスまで!!
icotobasc@gmail.com



iCoToBa

Christmas party

12/17(水) ←
14:00~16:00
(13:30から受付)

内容
クリスマスケーキのデコレーションをします!

参加人数
留学生12人
県大生12人

おねがい
ケーキのデコレーションに使えるお菓子やアイシングを一つ以上、もってきてください!

お申し込みはこちら!

県大生用
留学生用




ISC企画

2025年度 後期 Farewell party

日時 1月14日 水曜日
時間 14:00~16:00
(受付 13:30~14:00)

場所 iCoToBa
参加費 なし

内容

- ・すごろく
- ・かるた
- ・書き初め

事前申し込みが必要です

申し込みはこちらから

申し込み締め切り 1月12日月曜日 12:00



6 外部・地域との連携事業

グローバル実践教育推進室では、地域産業界や自治体等と連携し、地域社会における課題解決を目指した学習機会や地域でのボランティア活動の機会を学生に提供している。

2025年度に実施した内容は下記のとおりである。

6.1 探・県大スタディツアー

2021年から始まった愛知県教育委員会と連携した英語教育推進事業「探・県大スタディツアー」を引き続き実施した。

【目的】

県立高等学校に在籍する生徒が、愛知県立大学において、より高度な学びを体験するとともに、外国人留学生等との交流を通して、国際的な視野の涵養を図る。

【日程】

2025年9月13日(土)10:00～15:00 参加者:29名

2025年9月20日(土)10:00～15:00 参加者:27名

【当日のスケジュール】(各日程同一内容)

- ① 趣旨説明・諸注意(10分)
- ② 模擬授業(90分)
- ③ キャンパスツアー(動画上映20分)
- ④ 交流会(60分)

【講師および本学参加学生】

講師	Benjamin FILER	教養教育センター准教授
講師	Derrace McCALLUM	教養教育センター准教授
本学学生	石川 沙羅	外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻4年
	井戸田 英紀	外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻4年
	唐 瀟	国際文化研究科博士前期課程2年
	アビラ ガブリエラ	メキシコ グアダラハラ大学(交換留学生)
	宮階 拓真	外国語学部ヨーロッパ学科フランス語圏専攻4年
	バスティアン エブラル	国際文化研究科博士前期課程1年

石川 沙羅(外国語学部 ヨーロッパ学科 スペイン語圏専攻4年)

スタディツアーに参加させていただき、その際に高校生に向けて留学についての報告会を行いました。報告会では、「国外へ行くのは怖い」「治安は大丈夫なのか」といった高校生からの質問があり、高校生が留学に対して期待だけでなく不安も抱いていることが分かりました。そう

した質問に対して、自身の体験をもとに答えることで、不安があっても一歩踏み出すことの大切さを伝えられたと思います。

また、経験を言葉にして伝えることで、自分自身の中でも留学中に学んだことや感じたことを改めて確認することができました。今回の報告会は、留学を「自分の経験」から「誰かの選択肢」に変える場だったと感じています。



[2025年9月13日・20日 探・県大スタディツアー]

7 広報活動

7.1 iCoToBa 公式 Web サイトでの発信

iCoToBa は、2013 年の開室にあわせ公式 Web サイトを開設し、iCoToBa の利用促進を目指して、さまざまな情報発信をしている。iCoToBa の公式 Web サイト「Pickup Information」と「新着情報」を定期的に更新し、イベントや講座情報などを広く発信した。更新日とタイトルを表 12 に示す。2025 年 4 月 1 日から 2026 年 2 月 1 日の発信件数は 37 件である(2026 年 2 月 1 日現在)。

[表12 2025年度iCoToBa公式Webサイトでの情報提供]

更新日	タイトル
2025.4.2	2025 年度前期 iCoToBa 講座受講申込みについて
2025.4.3	iCoToBa Welcome Week に参加しよう！
2025.4.4	前期 iContact スケジュール
2025.4.29	留学生 iContact 始まります！（5/7 スタート！）
2025.4.29	iCoToBa 地域コミュニティ言語講座（ベトナム語・韓国朝鮮語入門編）受講者募集について
2025.5.7	2025 年度 第1回グローバルセミナーを開催します
2025.5.7	iCoToBa 地域コミュニティ言語講座（中国語）受講者募集について
2025.5.8	グアダラハラ大学日本語会話ボランティアの募集について
2025.5.12	毎週月曜日 iCoToBa で留学報告会を開催します！
2025.5.16	2025 年度 第 2 回グローバルセミナーを開催します
2025.5.30	2025 年度 第 3 回グローバルセミナーを開催します
2025.6.8	2025 年度 第 4 回グローバルセミナーを開催します
2025.6.11	2025 年度 第 5 回グローバルセミナーを開催します
2025.6.25	2025 年度 第 6 回グローバルセミナーを開催します
2025.7.3	2025 年度【2 大学連携授業】 第 7 回グローバルセミナーを開催します
2025.7.14	iCoToBa 夏季休暇中の開室時間のお知らせ
2025.7.18	2025 年度 第 8 回グローバルセミナーを開催します
2025.7.24	グアダラハラ大学日本語会話ボランティアの募集について
2025.9.26	2025 年度後期の iContact がはじまります！
2025.9.29	2025 年度【2 大学連携事業】 第 9 回グローバルセミナーを開催します
2025.9.30	毎週月曜日 iCoToBa で留学報告会を開催します！
2025.10.6	2025 年度後期 iCoToBa 講座の受講申込みについて
2025.10.16	【秋学期】グアダラハラ大学日本語会話ボランティアの募集について
2025.10.17	2025 年度 第 10 回グローバルセミナーを開催します
2025.10.21	留学生 iContact が始まりました！
2025.10.23	【11 月～】iCoToBa 講座「中国語」「スペイン語」受講者募集中！
2025.10.28	第 15 回多言語競演レシテーション大会を開催します！
2025.10.30	iCoToBa の助成で TOEIC-IP を受験しよう！
2025.11.4	2025 年度 第 11 回グローバルセミナーを開催します
2025.11.6	第 10 回グローバルセミナーの録画を期間限定で公開します
2025.11.11	2025 年度 第 12 回グローバルセミナーを開催します
2025.11.26	2025 年度【2 大学連携事業】第 13 回グローバルセミナーを開催します
2025.12.5	2025 年度 第 14 回グローバルセミナーを開催します
2025.12.23	2025 年度 第 15 回グローバルセミナーを開催します
2026.1.7	2025 年度 第 16 回グローバルセミナーを開催します

更新日	タイトル
2026.1.26	春季休暇 iCoToBa 閉室のお知らせ
2026.1.27	グアダラハラ大学日本語会話ボランティアの募集について

7.2 SNS での発信 (Facebook・Instagram)

2017年4月に iCoToBa の Facebook「愛知県立大学 icotoba(あいことば)」を開設した。週に1回以上の更新を目標に、学生が読みやすいカジュアルな文章や写真を多くアップしている。また2019年6月からは、Facebook と連動させて Instagram も開始し、認知度を高めるポスターの掲示や、ページへのアクションキャンペーンを行った。2026年2月1日現在で Facebook のフォロワー数は408人、2025年4月1日から2026年2月1日の発信件数は37件である。また、Instagram のフォロワー数は451人、2025年4月1日から2026年2月1日の発信件数は14件である。それぞれの記事の公開日および内容を表13、表14に示す(2026年2月1日現在)。

[表13 2025年度 Facebookによる発信状況]

公開日	投稿内容
2025.4.3	Welcome Week 広報
2025.4.3	2024年度後期 iCoToBa 講座申込み募集
2025.4.4	iContact スケジュール
2025.4.17	「サン・ジョルディの日をお祝いしましょう」広報
2025.5.12	地域コミュニティ言語講座「スペイン語でマンガを読もう!」、「初めてのベトナム語入門講座」受講者募集
2025.5.12	地域コミュニティ言語講座「食文化から学ぶ中国語講座」受講者募集
2025.5.15	留学報告会(ペルー ペルー・カトリカ大学)報告
2025.5.20	留学報告会(カナダ メモリアル大学)報告
2025.5.20	第16回日仏会館フランス語コンクール広報
2025.6.6	留学報告会(スペイン プンペウ・ファブラ大学)報告
2025.6.9	留学報告会(台湾 東海大学)報告
2025.6.12	留学報告会(スペイン サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学)報告
2025.6.16	第4回全日本学生ドイツ語プレゼン大会広報
2025.6.20	留学報告会(マレーシア テイラーズ大学)報告
2025.6.26	留学報告会(フランス リール大学、ロレーヌ大学)報告
2025.7.2	フェスタジュニーナ(Festa Junina)報告
2025.7.8	留学報告会(フランス リール大学)報告
2025.7.18	第43回全日本中国語スピーチコンテスト広報
2025.7.24	留学報告会(スペイン アリカンテ大学)報告
2025.7.25	第61回実用イタリア語検定広報
2025.7.25	留学報告会(ドイツ テュービンゲン大学)報告
2025.8.4	留学報告会(ドイツ ケルン大学)報告

公開日	投稿内容
2025.9.1	ドイツ語技能検定試験広報
2025.9.1	学生英語スピーチコンテスト広報
2025.9.9	HSK 中国留学就職フェア 2025 広報
2025.9.19	名古屋国際センター「グローバルユースフォーラム」広報
2025.10.10	留学報告会(カナダ メモリアル大学)報告
2025.11.4	留学報告会(メキシコ グアダハラハラ大学)報告
2025.11.4	留学報告会(スペイン セビリヤ大学)報告
2025.11.12	留学報告会(オーストラリア ウーロンゴン大学)報告
2025.12.2	留学報告会(台湾 東海大学)報告
2025.12.11	留学報告会(ベルギー ゲント大学)報告
2025.12.22	留学報告会(台湾 静宜大学)報告
2025.12.24	留学報告会(ポルトガル ミーニョ大学)報告
2026.1.5	留学報告会(フランス トゥールーズ大学 ジャンジョレス校)報告
2026.1.19	留学報告会(スペイン アコルーニャ大学)報告
2026.1.26	留学報告会(マレーシア テイラーズ大学)報告

[表14 2025年度 Instagramによる発信状況]

公開日	投稿内容
2025.4.3	Welcome Week 広報
2025.4.3	2024 年度後期 iCoToBa 講座申込み募集
2025.4.4	iContact スケジュール
2025.4.17	「サン・ジョルディの日をお祝いしましょう」広報
2025.5.12	地域コミュニティ言語講座「スペイン語でマンガを読もう!」、「初めてのベトナム語入門講座」受講者募集
2025.5.12	地域コミュニティ言語講座「食文化から学ぶ中国語講座」受講者募集
2025.5.20	第 16 回日仏会館フランス語コンクール広報
2025.6.16	第 4 回全日本学生ドイツ語プレゼン大会広報
2025.7.18	第 43 回全日本中国語スピーチコンテスト広報
2025.7.25	第 61 回実用イタリア語検定広報
2025.9.1	ドイツ語技能検定試験広報
2025.9.1	学生英語スピーチコンテスト広報
2025.9.9	HSK 中国留学就職フェア 2025 広報
2025.9.19	名古屋国際センター「グローバルユースフォーラム」広報



[iCoToBa SNS ページ]

8 iCoToBa 学部・学科別利用者一覧

(2025 年 4 月～2026 年 1 月)

2025 年 4 月から 2026 年 1 月までの iCoToBa 利用者一覧を表 15、表 16 に示す。

[表 15 iCoToBa 利用状況(外国語学部生)]

入学年度	外国語学部						計
	英米	フランス	スペイン	ドイツ	中国	国際関係	
2025	93	85	59	37	30	43	347
2024	25	163	239	83	20	53	583
2023	3	30	17	43	16	41	150
2022	84	48	28	24	0	2	186
2021 以前	11	18	17	0	7	17	70
計	216	344	360	187	73	156	1336

(人数はのべ数)

[表 16 iCoToBa 利用状況(外国語学部以外の学生)]

入学年度	日本文化学部		教育福祉学部		看護学部	情報科学部	大学院	※ 交換留学生	芸大	計
	国語 国文	歴史 文化	教育 発達	社会 福祉						
2025	0	2	12	30	11	2	7	90	0	154
2024	0	0	21	3	0	1	3	45	0	73
2023	11	11	0	2	0	0	0	0	0	24
2022	0	2	0	0	0	1	0	0	0	3
2021 以前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	11	15	33	35	11	4	10	135	0	254

※海外学術交流協定大学からの特別聴講学生を指す（人数はのべ数）

9 iCoToBa 施設見学

9.1 iCoToBa 訪問者

[表 17 2025 年度 iCoToBa 施設訪問者]

月 日	所属・氏名
4 月 8 日	愛知県藤井学事振興監、渡邊学事振興課長、磯貝課長補佐、 他担当 1~2 名 法人事務方 水上次長、舟橋部門長、加藤部長、伊藤企画財務課長
6 月 3 日	新規採用職員研修
6 月 4 日	ポルトガル・ミーニョ大学の語学センター（BabeliUM）職員 Emília Patrício 氏
6 月 18 日	愛知県公立大学法人評価委員会 公認会計士 松本千佳氏
6 月 18 日	駐日アンゴラ共和国大使館来学者 ルルデス ラウレアノ 三等書記官 伊東 朋美 職員(通訳)

11月18日	大学教育室保証・評価センター出席： 評価チーム主査 岩野雅子(山口県立大学 副学長) 評価事業幹事 奥野 武俊(大阪府立大学 名誉教授) 事務局担当 原岡 優(大学教育室保証・評価センター 主任)
12月12日	宮林 常崇 東京都立大学教務課長(兼務 開設準備担当課長) 鈴木 祐美子 東京都立大学管理部教務課特命担当 縄田 空

9.2 高等学校の iCoToBa 施設見学

[表18 2025年度iCoToBa訪問者(高等学校関係)]

月 日	学校名・学年	訪問者数			
		生徒	教諭	PTA	合計
5月 7日	愛知県立阿久比高等学校		2	30	32
5月 20日	愛知県立大府高等学校	40	2		42
5月 29日	愛知県立瀬戸西高等学校	80			80
7月 1日	岐阜県立長良高等学校	41	2		43
7月 3日	愛知県立名古屋南高等学校		2	45	47
7月 9日	日本福祉大学附属高等学校	35	3		38
7月 25日	愛知県立東海南高等学校		5	20	25
7月 29日	富山県立福岡高等学校	36	2		38
10月 6日	静岡市立高等学校		2	16	18
10月 15日	愛知県立犬山高等学校	40	2		42
10月 24日	岐阜県立関高等学校	40	2		42
10月 29日	名古屋国際学園	40	3		43
10月 30日	愛知県立旭野高等学校		1	50	51
計 13校		352	28	161	541

10 グローバル実践教育推進室会議

2025年度のグローバル実践教育推進室会議開催一覧を以下、表19に示す。

[表19 2025年度グローバル実践教育推進室会議開催一覧]

回	開催日	主たる審議・報告事項
第1回	4月23日	グローバル実践教育推進室名簿について 2025年度グローバル実践教育推進室事業内容(案) 2025年度前期 iCoToBa 講座開講について グローバルセミナー講師選出依頼 東海東京財団助成金執行結果 2025年度前期 iCoToBa 講座開講状況 2025年度前期 iContact 実施について
第2回 (メール会議)	4月29日 ~5月9日	6/26(木)開催「フェスタ・ジュニーナ」の機関後援依頼について
第3回 (メール会議)	5月26日 ~30日	グローバル実践教育プログラム「海外協定大学修得科目(外国語学部)」について 「グローバル実践教育プログラム」代替科目での履修について
第4回 (メール会議)	6月4日 ~9日	教育資器材整備費申請について
第5回 (メール会議)	6月16日 ~20日	フェスタジュニーナ参加者への証明書発行について
第6回 (メール会議)	6月26日 ~7月3日	2025年度後期非常勤委嘱について 愛知県教育委員会連携事業「探・県大スタディツアー」の実施について グローバル実践教育推進室員の追加について Festa Junina 参加証明書の発行について
第7回 (メール会議)	9月1日 ~8日	2025年度後期 iCoToBa 開講講座について 2025年度後期 iCoToBa 時間割 東海東京財団助成金申請について 休学中の学生の iCoToBa 利用について 2025年度後期グローバルセミナースケジュール

回	開催日	主たる審議・報告事項
第8回	10月30日	東海東京財団助成金の使途について 2025年度後期 TOEIC 対策直前講座の開講について 2025年度助成金の交付について 2025年度後期 iCoToBa 講座開講状況について 2025年度後期 iContact スケジュール 2020年度以前入学生の「グローバル実践教育プログラム」修了証の発行について 2025年度前期 iCoToBa 授業アンケート 2025年度オープンキャンパスアンケート iCoToBa・グローバル関連イベントの今後のスケジュール
第9回 (メール会議)	1月6日 ~13日	グローバル実践教育推進室の閉室およびグローバル実践教育推進室規程の廃止について

11 グローバル実践教育推進室

2025年度のグローバル実践教育推進室室員および事務担当者は以下のとおりである。

室長	奥田 隆史(教養教育センター長、情報科学科)
副室長	四ツ谷 亮子(ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻)
室員	
外国語学部	木下 郁夫(国際関係学科)
日本文化学部	中根 千絵(国語国文学科)
教育福祉学部	久我 アレキサンデル(教育発達学科)
看護学部	河村 諒(看護学科)
情報科学部	神谷 幸宏(情報科学科)
学務部	小林 章嗣(総括・教職・教養係長)
	水野 淑子(グローバル実践教育推進室・iCoToBa)
	今井 志穂(グローバル実践教育推進室・iCoToBa)
担当事務職員	秋本 美里(グローバル実践教育推進室・iCoToBa)

iCoToBa 年報 第 13 号

グローバル実践教育推進室年報

2026（令和 8）年 3 月発行

発行：愛知県立大学 iCoToBa（多言語学習センター）
〒480-1198 愛知県長久手市茨ヶ廻間 1522-3 E 棟 2 階
Tel: 0561-76-8833 Fax: 0561-64-1107
e-mail: icotoba@for.aichi-pu.ac.jp
<https://www.for.aichi-pu.ac.jp/icotoba/>

印刷 株式会社 あるむ

iCoToBa
Annual Report
Aichi Prefectural University

iCoToBaは東海東京財団の助成金を得て、運営しています